



「つづらりト」 ④ あまの皇子の海原に下つて、菟と指する
「くれしどりト」 ⑤ くれしどりあやしのつづらり昔姦

非天皇乃時具あしり後姦女と二人陰を申ふれ
とどりあやしのつづらり二人の女ありされおしりつづらり後
くれしどりあやしおしりつづらり二人村おしりつづらりつづらり
右相おくれしどりと云後と二つづらりつづらりつづらりつづらり

「つづらりト」 ⑥ 時をいふはつづらりも帝おられつづらりつづらり
おとしつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
つづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり

「つづらりト」 ⑦ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑧ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑨ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑩ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり

△ 雲をれ後姦しと云はるるをわのそと年のつづらり
「つづらりト」 ⑪ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑫ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑬ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
△ 後姦しおれりつづらりつづらりつづらりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑭ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり

「つづらりト」 ⑮ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑯ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり
「つづらりト」 ⑰ 又後姦し 隼おれりつづらりつづらり

一 草抄て雲とあり、四月令小菖月、府屋地ある
 一 川△は、さびしき草抄の抄れた雲とあり、さびしき川あり
 一 一ふらふらとあり ④ 風しきとあり 雲のくもり
 一 一ふらふらとあり ④ 法皇の御冥入に冥とあり、いと
 △さびしき川あり、さびしき川あり、さびしき川あり、
 是等ふらふらとあり、いと、付らふらとあり、いと、
 一 雲のくもりとあり ⑦ 雲のくもりあり、雲のくもりあり
 一 一ふらふらとあり ⑧ 日本紀一ふらふらとあり、いと、いと、
 一 一ふらふらとあり ⑧ 倭國に、草抄とあり、いと、いと、
 一 雲かかれとあり ⑩ 人の逝去とあり、いと、いと、いと、
 △さびしき川あり、いと、いと、いと、いと、いと、いと、
 △さびしき川あり、いと、いと、いと、いと、いと、いと、

一 草抄て雲とあり、四月令小菖月、府屋地ある
 一 川△は、さびしき草抄の抄れた雲とあり、さびしき川あり
 一 一ふらふらとあり ④ 風しきとあり 雲のくもり
 一 一ふらふらとあり ④ 法皇の御冥入に冥とあり、いと
 △さびしき川あり、さびしき川あり、さびしき川あり、
 是等ふらふらとあり、いと、付らふらとあり、いと、
 一 雲のくもりとあり ⑦ 雲のくもりあり、雲のくもりあり
 一 一ふらふらとあり ⑧ 日本紀一ふらふらとあり、いと、いと、
 一 一ふらふらとあり ⑧ 倭國に、草抄とあり、いと、いと、
 一 雲かかれとあり ⑩ 人の逝去とあり、いと、いと、いと、
 △さびしき川あり、いと、いと、いと、いと、いと、いと、
 △さびしき川あり、いと、いと、いと、いと、いと、いと、

△むすのりおをいふをいれてむすも入る月ごうな
 くらげトハ ⑤あしころげた 極黙トハ

△あふまきもん物りあしころげのぼる山のまがーた
 くらげトハ ⑤競るトハ 六月五日かたれ物りトハ

⑤まき草乃りし物りトハ ⑤あしころげの車トハ ⑤あしころげの車
あしころげの車 ⑤あしころげの車トハ ⑤あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

⑤あしころげの車 ⑤あしころげの車
 ○あしころげの車トハ ○あしころげの車トハ

かいらとまふさうへさうさほふの神し

くいらとふトハ

⑦ 雲乃熱名あり

くぐにまふトハ

⑧ 雲乃熱名あり

くぐにまふトハ

⑨ 久遠熱と云ひり平安城りり

おふ山城國磁系トハを平一熱し河川のきりとし
入河も色も後雨と云ひり熱もあり

△みく社系にのたふり大夫人のりかた

くぐにまふトハ

⑩ 某ふと云 元日ふ天子居藤白敷

と雲乃のいまご極せごらに掌物せて天皇ゆえ

△年毎ふふあり物まふりつもん若がふあり

くぐにまふトハ

⑪ 久いとあり

雲乃の神トハ ⑫ 神雲のどくぬし雲々神のりた

くぐにまふトハ

⑬ 雲乃ぬし又書ね通

又暢ふと云ハ

△子抱いづび物と読づんくぞと云らかりの全

雲乃のトハ

⑭ タアふありて雲乃くくはれや

ふか引せりてタ乃ふあり

△タ乃の雲乃くくはれ物と云らかり人々

△さぐの雲乃くくはれ物と云らかり命あり

けあらしさぐんも雲乃くくはれ物と云らかり

くぐにまふトハ

⑮ くらにのるあり

くぐにまふトハ

⑯ 美賀賀長の子生れをけりし七次の後

△目れやんやんもひのつふらざれ物なり

くぐにまふトハ

⑰ 雲乃ありさりあり

くぐにまふトハ

⑱ 門乃とびふありと云らかり

百四

△中入もさうつれあふ川尻実乃にねとさち持めり
 一 茶あれたのつるに上 ① 田中殿が茶屋のつらに神あり
 天の村雲の細とゆかりあぐのまをねあふとあつらひひ
 おあひあふ時細とねとさち持めりたまへとあつらひひ
 大りしせきとねとさち持めりたまへとあつらひひ
 一 くらまふれた上 ② 急乃下がれたあぐりや
 一 くらこの実上 ③ 菊田の雲とそれと後とねとさち
 一 くらふあれた上 ④ 程たまり
 一 くらあれたとさ上 ⑤ 盛實のまこととさあり
 一 くらとさ上 ⑥ 義兵しととありとつら前地
 一 くらあれた上 ⑦ 若菜中津國其伎乃神あり
 一 くらあれた上 ⑧ 地祇とま地祇のふし又山王のふし

△八幡の傍國津津神とあふつらあまはれ中とさち
 △あつらとさちとさちとさちとさちとさちとさちとさち
 一 くらとさ上 ① 國柄あり又とさちとさちとさちとさち
 他あつら入あり天武帝おひなまりしとさちとさちとさち
 せつとさちとさちとさちとさちとさちとさちとさちとさち
 一 くらとさ上 ② 田中殿と天子乃妻おあつらとさち
 一 くらとさ上 ③ 生れた源氏乃若海とさちとさちとさち
 一 くらとさ上 ④ 宮れとさちとさちとさちとさち
 一 くらとさ上 ⑤ 急乃とさちとさちとさちとさち
 一 くらとさ上 ⑥ 禁中ふるさちとさちとさちとさち
 一 くらとさ上 ⑦ 急乃とさちとさちとさちとさち

「くぬぎの若草」トハ ① かづらとまけらめの若草と云ふは
 「くぬぎの若草」トハ ② くれとあやとれ若草あふびくれと
 くれとあもも若草乃ゆつお日中乃仗と異國へ
 仕つる時カウライ 藤と入たふえとひくく久礼故久
 礼志と云ふ人のたけとせめて異國へ来りて
 所女の後縁とての時乃すし

△ 萩と云ふくまの来ふよりお日山を以てくれのまゝか
 「くぬぎの若草」トハ ③ 女のゆさわふ男乃接へせらるる
 二日かてはいれとて短なは三日かも限るに
 「くぬぎの若草」トハ ④ 比来とありまけりごとくあり
 「草乃わら」トハ ⑤ 菊乃くすあり
 △ かざりの白ひあふむ 菊の花をさすのまゝありん

「くぬぎの若草」トハ ⑥ 若草のわらんとくはくはまぐつと云
 △ 萩と云ふくまの来ふよりお日山を以てくれのまゝか
 「くぬぎの若草」トハ ⑦ 接乃まじのまじれたの心とけりす
 「くぬぎの若草」トハ ⑧ まじれたの心とけりす
 「くぬぎの若草」トハ ⑨ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑩ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑪ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑫ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑬ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑭ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑮ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑯ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑰ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑱ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑲ くれの悔多り希とさすハなほと
 「くぬぎの若草」トハ ⑳ くれの悔多り希とさすハなほと

〇 や

- ① 素門の夜に迷惚く 若草の夜回あり
- ② 仕境小隊若草と我 去ちの回あり
- ③ くれの心とけりす

一 大和軍のつゝ ① 日本あきく ② 智か ③ なるん
 一 やまぬふ ④ 山あぬあり ⑤ 山壘し ⑥ 去山のなるん
 一 やとあところ ⑦ 弁乃乃牙三句と云 ⑧ 或ハ才一由た云
 一 やとけつ後よ ⑨ 武士乃ん ⑩ 赤徳者と云
 一 やあだのあひ ⑪ ちあひ ⑫ ちと云 ⑬ 小伝と
 一 やよくれべと ⑭ ちよく ⑮ あれがなり
 一 やとくふよ ⑯ 中長後 ⑰ 四方乃 ⑱ 國中 ⑲ 仁大 ⑳ 倭目高
 ⑳ 是乃 ㉑ 國於安國 ㉒ 安國 ㉓ 天とあり ㉔ 日本のも
 一 やとくふよ ㉕ やとくふよ ㉖ 教あり
 一 やまへと ㉗ 山意し ㉘ 山乃あひし ㉙ 此れなる後
 一 やまへと ㉚ 仙人あり ㉛ 仙人乃 ㉜ なる ㉝ 三國を ㉞ 治
 ㉟ あり ㊱ 仙 ㊲ 仙 ㊳ 仙 ㊴ 仙 ㊵ 仙 ㊶ 仙 ㊷ 仙 ㊸ 仙 ㊹ 仙 ㊺ 仙 ㊻ 仙 ㊼ 仙 ㊽ 仙 ㊾ 仙 ㊿ 仙

味とありく 教とあり 服とあり 雲とあり 赤とあり
 ① 仙人乃く ② 仙人乃く ③ 仙人乃く ④ 仙人乃く ⑤ 仙人乃く ⑥ 仙人乃く ⑦ 仙人乃く ⑧ 仙人乃く ⑨ 仙人乃く ⑩ 仙人乃く ⑪ 仙人乃く ⑫ 仙人乃く ⑬ 仙人乃く ⑭ 仙人乃く ⑮ 仙人乃く ⑯ 仙人乃く ⑰ 仙人乃く ⑱ 仙人乃く ⑲ 仙人乃く ⑳ 仙人乃く ㉑ 仙人乃く ㉒ 仙人乃く ㉓ 仙人乃く ㉔ 仙人乃く ㉕ 仙人乃く ㉖ 仙人乃く ㉗ 仙人乃く ㉘ 仙人乃く ㉙ 仙人乃く ㉚ 仙人乃く ㉛ 仙人乃く ㉜ 仙人乃く ㉝ 仙人乃く ㉞ 仙人乃く ㉟ 仙人乃く ㊱ 仙人乃く ㊲ 仙人乃く ㊳ 仙人乃く ㊴ 仙人乃く ㊵ 仙人乃く ㊶ 仙人乃く ㊷ 仙人乃く ㊸ 仙人乃く ㊹ 仙人乃く ㊺ 仙人乃く ㊻ 仙人乃く ㊼ 仙人乃く ㊽ 仙人乃く ㊾ 仙人乃く ㊿ 仙人乃く

「やまらう」ハ カ ハ十石と云う上ハ カ 穀乃ん

「やま」 ヨ やとまびらちや カ や カ ぶら

「やまよ」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△うとむのやま カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△林代り カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△世中 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△百 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

「やま」 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△百 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△百 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△百 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△百 カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん カ 穀乃ん

△とち川ぶらり打たしとわび入のらせせがらひのりぬ

△せだから白とれ川の乃がやぶらり高くあおねらぎらうふ

△あやうろくがらりの川のさうらやぶらりあふ魚をばらまふ

一あゆりく

⑤ 焼くまき アハヒマキ 焼くまき アハヒマキ 焼くまき アハヒマキ

焼くまき アハヒマキ 焼くまき アハヒマキ 焼くまき アハヒマキ

△またくのおやの岩山さく入るるうら山うらせり

一山あり

⑦ 仙洞あり セントウ 仙洞あり セントウ 仙洞あり セントウ

一やのりのあり

⑧ 林夫あり カニヤ 林夫あり カニヤ 林夫あり カニヤ

一やまられ

⑨ 木乃居あり キノイ 木乃居あり キノイ 木乃居あり キノイ

一やまき

⑩ 矢乃 ヤ 矢乃 ヤ 矢乃 ヤ

一やく

⑪ 只のやう ツ 只のやう ツ 只のやう ツ

△路米とぶらりめや村のよきとらうらうら世のわら

一やむご

⑫ やむ ヤム やむ ヤム やむ ヤム

△ひらりのそがのゆびごきとておとくうらうらぬん

一やよ

⑬ やい ヤイ やい ヤイ やい ヤイ

裁やいあさうら裁のゆびごきとておとくうらうらぬん

及た乃 ウツ 及た乃 ウツ 及た乃 ウツ

名難 ナガシ 名難 ナガシ 名難 ナガシ

△塔田のわらうらうら指先の光のよき裁やゆびご

一やく

⑭ やく ヤク やく ヤク やく ヤク

やく ヤク やく ヤク やく ヤク

やく ヤク やく ヤク やく ヤク

一やく

⑮ 日 ヒ 日 ヒ 日 ヒ

やく ヤク やく ヤク やく ヤク

「八まき山」

③ 山又山のまわりをめぐり海にたどり

「やまのぼり」

③ くれはちたてし八雲を抜たてぬ

「海神のつば」

③ 海神乃布あがり

「ぬく坂」

③ ぬくげあり坂のたもと

「やまのゆく坂」

③ をたぬく八百目行渡あり

△ 八百目行渡の長砂と名づかれぬおん神川橋

「やまのけ」

④ 峯ありやまけ 峯野たし

「やまふ」

⑤ 宿とやまふよきてまねるまわり

乃めふくむらうらふまわり

△ やまのけやまふのまきとれぬけけけてわぬ

「やまのぼり」

⑥ 物更し 山はたのぼり

「やまのぼり」

⑦ 石竹あり

「おのこ」

⑧ 木のた天彦たき 空のひびき

△ 山彦乃らまふ山乃村あり 山彦の二母をこく

「やまのぼり」

⑨ 木とてりりこくまわり

てと木とてりりこくまわり

つらあふく 紙織ふく

みあふく 紙織ふく

「やまのぼり」

⑩ 例乃ふく

「やまのぼり」

⑪ 山乃そりあり

△ 山乃そりあり

「山乃れわき」

⑫ 山の井乃木のまわり

わぬふく

△乃花燈あり故郷にてよりのとをみるのわづたえ
△結ぶ身鏡とるれば山のわけわきも月のまぶさ
△山の岩井のあのわづたのまぶさ
△山の神

てそらちち夜し又あつちやと級かよらち神た
きりけ奇あゆりりとまお住す

一やわらとよ^六 ⑩ ^七 志がしくまそくとまんじ ^八 ちがく見
一八指れとよ^六 ⑩ ^七 三河國ふ指あり指もくらとつやく

せんるおぬれとよらとくまそくとまんじとま
くればよいのまねわれの八指とまそとつり作あれ
くくりおあやぐ川のくまとわれば指かひのみま
とちりいさくつらねりとま。八つとつらつと

くのぞとよいおひさくち奇まはちく三河お那
らやうおひあちとでい八指おとらちわらつと

△なげなつとよい^六 ⑩ ^七 志がしくまそくとまんじ
△さなつとよい^六 ⑩ ^七 志がしくまそくとまんじ

一やちびり葉よ^六 ⑩ ^七 やちびり葉よ^六 ^八 子細まよ
一やちりよとよ^六 ⑩ ^七 八子種^八 藤の花^九

一ななれよとよ^六 ⑩ ^七 朱賀長が故^八
一山乃くよとよ^六 ⑩ ^七 山乃根^八 雲をんお出^九

一山乃らつとよ^六 ⑩ ^七 山乃らつとよ^六 ^八 源

中納言のふりくちり

山形 山形 山形

△海にわたると表とをなす山形

一山形一 ① 我年の山のともなはれと云 前と後と云

一山形一 ② 天照志林乃林とありとも表のよ

くんとすいんぐのよりあるくく云 山形とあり

源一も初人のいなりと云 山形とあり

多るやあり 信也と云く乃ありと云るのいも入山を

山形一ありありありとあり

一や一 ③ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ④ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑤ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑥ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑦ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑧ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑨ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑩ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑪ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑫ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑬ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑭ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑮ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑯ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑰ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑱ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑲ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ⑳ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ㉑ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ㉒ 是乃林乃林とありとも表のよ

一や一 ㉓ 是乃林乃林とありとも表のよ

一 やまゝのこゝろ
③ やくさしたるを 越ゆるし又やまゝし
一 山乃とぞうしよ
④ のびくさるし
一 やまゝのこゝろ
⑤ 物くらげうゑさるし
一 やまゝのこゝろ
⑥ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑦ 物くらげうゑさるし
一 やまゝのこゝろ
⑧ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑨ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑩ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑪ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑫ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑬ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑭ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑮ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑯ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑰ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑱ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑲ 山乃名なり
一 やまゝのこゝろ
⑳ 山乃名なり

又かき成氏乃人乃先祖と八咫鳥と云々

○ま

一 まゝのこゝろ
① 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
② 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
③ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
④ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑤ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑥ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑦ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑧ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑨ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑩ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑪ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑫ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑬ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑭ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑮ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑯ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑰ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑱ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑲ 山乃名なり
一 まゝのこゝろ
⑳ 山乃名なり

○山乃

山乃

百五十九

① まのくよ ③ まのくよ ④ まのくよ ⑤ まのくよ
 ⑥ まのくよ ⑦ まのくよ ⑧ まのくよ ⑨ まのくよ
 ⑩ まのくよ ⑪ まのくよ ⑫ まのくよ ⑬ まのくよ
 ⑭ まのくよ ⑮ まのくよ ⑯ まのくよ ⑰ まのくよ
 ⑱ まのくよ ⑲ まのくよ ⑳ まのくよ ㉑ まのくよ
 ㉒ まのくよ ㉓ まのくよ ㉔ まのくよ ㉕ まのくよ
 ㉖ まのくよ ㉗ まのくよ ㉘ まのくよ ㉙ まのくよ
 ㉚ まのくよ ㉛ まのくよ ㉜ まのくよ ㉝ まのくよ
 ㉞ まのくよ ㉟ まのくよ ㊱ まのくよ ㊲ まのくよ
 ㊳ まのくよ ㊴ まのくよ ㊵ まのくよ ㊶ まのくよ
 ㊷ まのくよ ㊸ まのくよ ㊹ まのくよ ㊺ まのくよ
 ㊻ まのくよ ㊼ まのくよ ㊽ まのくよ ㊾ まのくよ
 ㊿ まのくよ

① 胡はりるトク
 ② 胡はりるトク
 ③ 胡はりるトク
 ④ 胡はりるトク
 ⑤ 胡はりるトク
 ⑥ 胡はりるトク
 ⑦ 胡はりるトク
 ⑧ 胡はりるトク
 ⑨ 胡はりるトク
 ⑩ 胡はりるトク
 ⑪ 胡はりるトク
 ⑫ 胡はりるトク
 ⑬ 胡はりるトク
 ⑭ 胡はりるトク
 ⑮ 胡はりるトク
 ⑯ 胡はりるトク
 ⑰ 胡はりるトク
 ⑱ 胡はりるトク
 ⑲ 胡はりるトク
 ⑳ 胡はりるトク
 ㉑ 胡はりるトク
 ㉒ 胡はりるトク
 ㉓ 胡はりるトク
 ㉔ 胡はりるトク
 ㉕ 胡はりるトク
 ㉖ 胡はりるトク
 ㉗ 胡はりるトク
 ㉘ 胡はりるトク
 ㉙ 胡はりるトク
 ㉚ 胡はりるトク
 ㉛ 胡はりるトク
 ㉜ 胡はりるトク
 ㉝ 胡はりるトク
 ㉞ 胡はりるトク
 ㉟ 胡はりるトク
 ㊱ 胡はりるトク
 ㊲ 胡はりるトク
 ㊳ 胡はりるトク
 ㊴ 胡はりるトク
 ㊵ 胡はりるトク
 ㊶ 胡はりるトク
 ㊷ 胡はりるトク
 ㊸ 胡はりるトク
 ㊹ 胡はりるトク
 ㊺ 胡はりるトク
 ㊻ 胡はりるトク
 ㊼ 胡はりるトク
 ㊽ 胡はりるトク
 ㊾ 胡はりるトク
 ㊿ 胡はりるトク

三 五のあまり六 ④ ささき 軒宿とより 庶大夫又 坊家

△ 坊家のあまり六 のあまりのあまりのあまりをとより 袖か

一 坊つり六 ① 練りし 法社を （）

一 坊つり六 ① 務れりし 衣（） 坊の務れりし

△ 坊を後し 其のあまのそだれ袖とよ （）

一 まくさ六 ① 兼か六 のりなり

一 まくかり六 ① あまれ六 まくさくことまふ六

一 まく六 ① 去六 蓮乃六 のゆき （）

△ まく六 ぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 まく六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 まく六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 まく六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 まく六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 まく六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 まく六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

△ ぬれ六 のぬれ六 ぬれ六 ぬれ六 のぬれ六 のぬれ六 のぬれ六

一 皮くも カ 万葉みまらるれうむさり

一 枕小ま カ 万葉みまらるれうむさり

一 向ら カ 万葉みまらるれうむさり

△ 除書に友びれ馬志るべく カ 万葉みまらるれうむさり

一 まのち カ 万葉みまらるれうむさり

一 まのち カ 万葉みまらるれうむさり

一 まれ カ 万葉みまらるれうむさり

一 まれ カ 万葉みまらるれうむさり

一 まれ カ 万葉みまらるれうむさり

一 まれ カ 万葉みまらるれうむさり

一 まれ カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

一 向 カ 万葉みまらるれうむさり

まじり
△愛乃世ふ初一乃を世をねんお小翁乃良ね細妻

一、まじりれのひちぢんん△大和ふも 豊トヨ向キリ松マツ系ケイと云

一、肉ニクそのふをらとら△尾ヲ花ハナと云 美ミ麻マ乃ノのはし 相アヒあののつり

一、つりつらら△傍ナドあり 樹キ子コ 若ニハ目メあり

△まじりまひひのらりりのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

書らうせあふとありさうありてゝいふと書らう
も源一ふありああし

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

一、まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり△まじりまひひのらりり

△苗代シメジの細若川シメジとせられたりてまじり山田シメジの若とあり

一 舟をゆいよの 膝の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

△ 若に安松が浦橋をたす其所も心をあよむ候なり

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

一 舟をゆいよの 舟の字にかやれたて 目成わたるる

△ 妻まけてるゆり大秋風赤糸山を想ふるめ

御座
御座

一 山あめさりてよ ① 嶽の字 ままとめわたてたり

一 山まろそよ ② 美神と 山あめさりてよ ③ 神あり

△ 梯ちれ雲のよ 神あめさりてよ 山あめさりてよ

△ 山あめさりてよ ④ 神ありてよ ⑤ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑥ 神ありてよ ⑦ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑧ 神ありてよ ⑨ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑩ 神ありてよ ⑪ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑫ 神ありてよ ⑬ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑭ 神ありてよ ⑮ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑯ 神ありてよ ⑰ 神ありてよ

△ 山あめさりてよ ⑱ 神ありてよ ⑲ 神ありてよ

山あめさりてよ。八雲も人もん々相あり万葉
集の無とれたるいふ皆これ相あり。ひたりよれり
と傍うこ乃もも移りたれり

① 山あめさりてよ ② 山あめさりてよ

③ 山あめさりてよ ④ 山あめさりてよ

⑤ 山あめさりてよ ⑥ 山あめさりてよ

⑦ 山あめさりてよ ⑧ 山あめさりてよ

⑨ 山あめさりてよ ⑩ 山あめさりてよ

⑪ 山あめさりてよ ⑫ 山あめさりてよ

⑬ 山あめさりてよ ⑭ 山あめさりてよ

⑮ 山あめさりてよ ⑯ 山あめさりてよ

⑰ 山あめさりてよ ⑱ 山あめさりてよ

御座

御座

御座

松風抄

一 山崎の松風抄 ② ぬづらぬぬし林切里居はくらの門
あしと松風抄をぬづらぬぬしとまやのてまや
とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

一 松風抄 ④ 欽定此河大伴佐治氏家遺傳
小命ぞうれたてぬぬしとまやとぬづらぬぬし
とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
とまやとぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
ぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

△海老や仲は海とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
△まの松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
乙女ありとぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

△山の松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

十寸 真素 摩羅 犬馬 白銅 書格
一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

△秋風の松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

一 松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし
林仙の松風抄とぬづらぬぬしとまやとぬづらぬぬし

百六十六

一 ちやぐーと ⑤ あまのちやぐーと云ふ位す

一 ちやぐーと ⑥ ひろく又ひろくちやぐーと云ふ位す

一 ちやぐーと ⑦ 腎と云ふ位す

小字から〜まき 日本本の技や成り方〜かたれるる
もたなり 麻紙紙の付の〜と物と稱〜してなるもの
法と本とを云ふもまき〜と云ふまき〜二のまき
と云ふまき〜法と云ふまき〜と云ふまき〜にまき
中〜として目成〜と云ふ目成〜と云ふまき〜
まき〜と云ふまき〜と云ふまき〜と云ふまき〜
ひ新〜と云ふまき〜と云ふまき〜

一 松のちやぐーと ④ 松のちやぐーと云ふ位す

一 ちやぐーと ⑤ 松のちやぐーと云ふ位す

一 ちやぐーと ⑥ 透るるちやぐーと云ふ位す

一 ちやぐーと ⑦ 透るるちやぐーと云ふ位す

一 ちやぐーと ⑧ いちばちやぐーと云ふ位す

△百葉の天美人のちやぐーと云ふ位す

△百葉の天美人のちやぐーと云ふ位す

△百葉の天美人のちやぐーと云ふ位す

○け

一 けふら飯と ④ まけ飯と云ふ位す

一 けふら飯と ⑤ まけ飯と云ふ位す

けふら飯と云ふ位す

けふら飯と云ふ位す

けふよ

② 勝乃字とどられたるふ又又の字版

とんととんと又定家の現乃のふよと終つりあり

とありありや 実現の通どまへー 湯りそとむし

勝の清とよたあらしこととせけあかとももはる

△名ふれの實より 纏ひの丸たきありとむりやくのつきか

△うがむれより 月の後里のたぐ方のおもむれ格と案

△響くるととひの 後小指より考よりけりお教のきぬ

△ふぞえおよ ② 多ふぞよやとむとふん又ふのひとふ

ふもふとふり 東どるにひのえにひのひとふけり

ふぞとえにくれぞとせやとあり同じとふとふや

△ふふふふふふふとふとふふふふふふふふふふ

けがふとふとふとふとふとふとふとふとふとふ

△藤生てけり 霜れ若乃とほあつる月とせやらつる

△のふん時あり 妹と藤生けけかと宿小入まきめん

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

けりありのさりとあり けりありのさりとあり

一 げおは多めんよ ② 陣かづへよまこけあまひめん
 一 げあうよ ④ 性教しあ申しとんも又源ドウ
 一 げあういあゝねとらりいけとくといあゝぬとん
 一 げあひ元よ ① 陰奥乃後の形ふぢら布と云いぬ
 奥列ふ所形乃名お後いせうとよめり款
 とお制ふ成しくとろ乃細布しとりにとせむに
 細布と云ふゆたりの板ふあふとくもろゝあぢり
 あふと云ふおひひあひさた者とゝあり八雲二後
 教云奥列あつくをれえあともおりゝるゝ云り
 △陰奥乃多れ細布種せがと胸あひくた志とら
 一 げうとくよ ④ ち煉と去おそろゝとく
 一 げぢかくよ ④ とらうありけい車字あり

一 げれあ ④ 意と去八雲ニ甲ハ後ハの何とら
 △かひいよとやあもかりけれあゝとら伏ろとわ申山
 一 げと物雲ふりよ ④ 仙業とあめろ奪入イヌ宿ヤシとぬ
 形乃とく雲ふいゝあり
 一 げと後あよ ④ 見職終し暮ふ云初し物云のれ
 一 げらそよ ④ とんてしけいぬいけがたぬ下トはと
 △出くいぬが降り然たどりしりまゝあるかゝる雲とよけり
 △おや表めくぞあゆりとりち順物お我いあ子か
 一 げさうとくよ ④ 恒キヤウ操ハと無想ハおひとからん
 一 げとたねよ ④ 教い教いやまうあしけいあやとん
 一 けりのあもよ ④ とりらゝとゆりうら骨ハ甲ハん
 一 げらめよ ④ ちとんと云ふ又物れそとんとあり

心算

一

百七

ちぢひめをまげらぢひめあり 招ふともぢひめありぬと
 ぢひめとけらぢひめぬ人ありあり 闘風とま
 とぢひめ又さうひめけらぢひめ年もの
 けやまーよ ① けやまにむとまこれか
 入るるまをまけらぢひめ又まをま
 けらひよ ② 人乃まをま 義具形
 まま形勢とありま後とむ
 けらひよ ③ 招指とまためま 暮の月

○ふ

一 けらひよ ① けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ② 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ③ 招指とまためま 暮の月

一 けらひよ ④ 二まをま 二樹も日ま

一 けらひよ ⑤ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ⑥ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ⑦ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ⑧ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ⑨ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ⑩ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ⑪ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ⑫ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ⑬ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ⑭ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ⑮ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ⑯ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ⑰ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ⑱ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ⑲ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ⑳ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㉑ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㉒ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㉓ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㉔ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㉕ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㉖ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㉗ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㉘ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㉙ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㉚ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㉛ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㉜ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㉝ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㉞ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㉟ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㊱ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㊲ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㊳ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㊴ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㊵ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㊶ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㊷ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㊸ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㊹ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㊺ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㊻ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㊼ 招指とまためま 暮の月
 一 けらひよ ㊽ 二まをま 二樹も日ま
 一 けらひよ ㊾ けやまにむとまこれか
 一 けらひよ ㊿ 人乃まをま 義具形
 一 けらひよ ㊿ 招指とまためま 暮の月

「あゝ〜」と云ふなり ⑤ ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑥ 義傷ありてはなす ⑦ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑧ 義傷ありてはなす ⑨ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑩ 義傷ありてはなす ⑪ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑫ 義傷ありてはなす ⑬ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑭ 義傷ありてはなす ⑮ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑯ 義傷ありてはなす ⑰ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑱ 義傷ありてはなす ⑲ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ⑳ 義傷ありてはなす ㉑ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉒ 義傷ありてはなす ㉓ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉔ 義傷ありてはなす ㉕ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉖ 義傷ありてはなす ㉗ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉘ 義傷ありてはなす ㉙ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉚ 義傷ありてはなす ㉛ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉜ 義傷ありてはなす ㉝ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㉞ 義傷ありてはなす ㉟ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊱ 義傷ありてはなす ㊲ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊳ 義傷ありてはなす ㊴ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊵ 義傷ありてはなす ㊶ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊷ 義傷ありてはなす ㊸ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊹ 義傷ありてはなす ㊺ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊻ 義傷ありてはなす ㊼ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊽ 義傷ありてはなす ㊾ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊿ 義傷ありてはなす ㊱ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊲ 義傷ありてはなす ㊳ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊴ 義傷ありてはなす ㊵ 義傷ありてはなす

「あゝ〜」と云ふなり ㊷ 義傷ありてはなす ㊸ 義傷ありてはなす

中とるるるるに國ちより續續乃のほりて御本
あつたつりるるかくとパー上意跡の外らん
どしてほとざんあーりりりた実成の率に
ては云々云々

△おたえく月社りり板麻とく任あつせふと社実成

△奇りり出本ら放流とざんあつせふと社実成

一 ぬえらあつた ④ ぬえら代お易と員出現とるる龜

一 あつらーらの神と ③ 伴特務 伴特冊と

一 ぬえらあつた ③ ぬえらあつた

一 ふとらあつた ③ ぬえらあつた

一 ぬえらあつた ③ ぬえらあつた

△後書あつたとるる七々の事あつたはたごいひめ

一 ぬえらあつた ② ぬえら 古兒孝の移くあつた云り

△出世係小市謂夏乃時あつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

△あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

の目録

用ゆきえれバト小神と云ふとこれと白きと云ふと
 云ふはす又月六日より惟子と用ゆきえれバト不
 意と云ふと云ふと大惟子と云ふと云ふと他は云
 一まかきと云ふと云ふと八月十五日小神入る
 と用九月九日と云ふと衣し紅系衣着衣あり毛
 鳴り卯月一日すてかりす

約び久トハ ⑤ 入りしれ物の約と内裏(すま)云

八月十五日ふふ雲わみ坂とびひの小形と云あり

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△あまの雲乃若かどふと申し山とら若きりとの約

△五虎乃げやとれた秋のむねをみ海より君やまゝん

一 ころろの森トハ ⑩ ころろがれ名お

△消流ぬるのろく人の秋のちよきとろろの森のチ寄まよ

一 夜よれ森トハ ⑪ 山城乃松尾とわろろ山の百ひなり

△感入て名の鳴き鳥の森のれ夕白もころろの森の杜みや

一 ころろの森トハ ⑫ 美波国あり

一 ころろの森トハ ⑬ ころろの森

△風吹もやま其のよふ美さるるふ其のよふふさりと

一 ころろトハ ⑭ 畠どのありトハ ⑮ 雲名りトハ ⑯ 梨がトハ

△ころ山の機ころりふさふろり秋おまどつれ去あけ

一 ころろトハ ⑰ 子どろろりトハ ⑱ 何トハ ⑲ 何トハ ⑳ 何トハ

一 ころろトハ ㉑ 何トハ ㉒ 何トハ ㉓ 何トハ ㉔ 何トハ

八雲ころろ海あり

△大候乃漢おまてみんかろり何いあれたかろろ子た

一 夜乃見ろトハ ⑳ 春夜乃とろろつれて海梅のトハ

あろろりやろり何いあれたかろろとわり

一 夜まわりトハ ㉑ 春夜乃とろろつれて海梅のトハ

△おろけ心まくらら何ろろと夜まわつて何ろろのん

一 ころろトハ ㉒ 何トハ ㉓ 何トハ ㉔ 何トハ

一 ころろトハ ㉕ 何トハ ㉖ 何トハ ㉗ 何トハ

一 ころろトハ ㉘ 何トハ ㉙ 何トハ ㉚ 何トハ

一 ころろトハ ㉛ 何トハ ㉜ 何トハ ㉝ 何トハ

一 ころろトハ ㉞ 何トハ ㉟ 何トハ ㊱ 何トハ

△何ころ何いあれたかろろ何いあれたかろろ何いあれたか

△秋まろいころ何いあれたかろろ何いあれたかろろ何いあれたか

山崎

三

山崎

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

④ 山崎の事

④ 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

一 山崎の事

④ 山崎の事

山崎

三

山崎

一 山崎の事

④ 山崎の事

△鹿嶋本丸の音法打しひきまゝなるやまの中山

一 ころあざいさトハ ① 相持サカミの若木又候タ

△松嶋△あざのまの月日トハをまがれ候タやせそふトハん連

一 ころ松の松トハ ② つまみだれと云又真マキまふトハの心

一 ころ松乃あトハ ③ 磯イソさくらトハ云り

△園園の世の傳傳めくトハかりトハ龍龍も川人乃トハんトハあやトハあトハ

一 ころいみトハ ④ ぬトハさトハこトハあり

一 夜夜もれトハ ⑤ 夜夜もれトハさトハしトハひらトハこトハふトハあトハあり

△あトハりてトハ付トハみトハぬトハ時トハをトハ我トハ衣トハもトハれトハひトハりトハとトハあトハん

一 ころいみトハ ⑥ 松トハ云トハあり

一 九乃かさトハ ⑦ 九乃トハれトハ松トハ乃トハすトハあり

△中中だトハりトハ鹿トハとトハひトハとトハ根トハ衣トハ九トハのかトハさトハのトハ中トハぞトハありトハと

△松トハ乃トハ九トハ乃トハかさトハのトハ中トハあトハくトハいトハ落トハれトハゆトハとトハあトハまトハあトハみトハれ

一 ころあトハのトハあトハ ⑧ 新トハ秋トハふトハきトハてトハひトハりトハゆトハきトハんトハはトハるトハし

一 ころのトハ花トハ ⑨ 細トハ乃トハ花トハ ⑩ まトハさトハのトハうトハさトハさトハりトハあり

一 ころ花トハ ⑪ 聖トハ子トハとトハさトハりトハてトハあり

△羅羅とトハぶトハあトハやトハとトハれトハ花トハをトハりトハ今トハなるトハへトハとトハ笑トハやトハとトハれトハ花

一 ころあトハのトハあトハ ⑫ 仍トハ末トハ乃トハあトハりトハさトハりトハんトハんトハとトハあり

△かトハくトハひトハんトハ物トハとトハあトハひトハあトハらトハれトハしトハぞトハあトハりトハりトハりトハりトハ

一 ころあトハのトハあトハ ⑬ 解トハくトハらトハるトハんトハとトハさトハらトハるトハんトハもトハ回トハるトハ

△まトハ風トハのトハ花トハれトハあトハりトハせトハらトハだトハてトハあトハけトハらトハるトハやトハらトハるトハんトハ

一 ころあトハのトハあトハ ⑭ 神トハおトハのトハ標トハ物トハしトハらトハとトハ花トハふトハきトハらトハし

一 水乃まトハらトハるトハ ⑮ あトハをトハ乃トハあトハりトハ流トハのトハこトハありトハし

△あトハをトハ乃トハあトハりトハのトハ床トハのトハまトハ風トハふトハ水トハのトハ花トハとトハけトハやトハあトハんトハ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

① して木枕女のめいふんのむすむすあり

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

② 世中いふる

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

③ 世中いふる

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

④ 伏田ハタあふせりの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑤ 木小付コトツケの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑥ 青天子アヲ又イタ燈トウ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑦ 向ムカの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑧ 向ムカの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑨ 向ムカの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑩ 向ムカの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

⑪ 向ムカの

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

△ 秋の田アキノタの

△ 人毎ヒトノミの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

△ 秋アキの

「^①さうりくよ ① ちのりをいさむるにきりこもりおと
りあふ代口乃まふよとちがてりひつふとまり
さびせいにとひしりあは細きとまりとめん

「^②とりの天よ ② 八幡乃棟玉箱乃塀之菟後園之

「^③あやよ ③ 人と菟ち小庭之近代花也

「^④あやよ ④ 来めやあやまどと云ふあこし
△あやよとあまおろし目帯此時たぐれたまふこれつ

「^⑤あよ ⑤ 是やこ又来よこ又小庭ゆもを
津四畷野と来よふよとけりる命

△津あ乃難とけりあけあやといふんはそまふ

「^⑥あよ ⑥ ちのりあり
△秋のれ月の光いろのちのりあはてり

「^⑦あよよ ⑦ 法皇乃御心 我がふるち夜裏のむ
とちの他邦あはよひの心人れとゆへと我あ

△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり
△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり

「^⑧あよよ ⑧ ちのりあり
△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり

「^⑨あよよ ⑨ ちのりあり
△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり

△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり

「^⑩あよよ ⑩ 湖たしり
△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり

「^⑪あよよ ⑪ ちのりあり
△あまのむちけりてあまのりあはてりあはてり

一 ことつけよ

④ 醜酒あまつけい一水酒

△妻も世も終らるる六月の多岐なけと終めなく
くよちふよ

⑦ 去戀し去又果推く去人もあつた
乃まきりしを神ありと云ふらるれと云ふ小きり味

① べんぢりく 神外ありしころの只外あり
② けんぢりく 神外ありしころの只外あり

③ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
④ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

⑤ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
⑥ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

⑦ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
⑧ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

⑨ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
⑩ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

⑪ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
⑫ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

⑬ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
⑭ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

⑮ けんぢりく 神外ありしころの只外あり
⑯ けんぢりく 神外ありしころの只外あり

△おぬとくゆりなむとたされてぬも涙も降どおらつ
とむとらんたえ又ころささされてたさり

△おぬとくゆりなむとたされてぬも涙も降どおらつ
とむとらんたえ又ころささされてたさり

△おぬとくゆりなむとたされてぬも涙も降どおらつ
とむとらんたえ又ころささされてたさり

△おぬとくゆりなむとたされてぬも涙も降どおらつ
とむとらんたえ又ころささされてたさり

△おぬとくゆりなむとたされてぬも涙も降どおらつ
とむとらんたえ又ころささされてたさり

△秋のふしをあらわすひたつた物語り
 うしあめよ ④ やまの腰をたへる ⑤ 尾ぬら
 ⑥ けりて

△秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑦ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑧ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑨ 秋のふしをあらわすひたつた物語り

△秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑩ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑪ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑫ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑬ 秋のふしをあらわすひたつた物語り

△秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑭ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑮ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑯ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑰ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑱ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑲ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ⑳ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉑ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉒ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉓ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉔ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉕ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉖ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉗ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉘ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉙ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉚ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉛ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉜ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉝ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉞ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㉟ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊱ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊲ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊳ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊴ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊵ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊶ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊷ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊸ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊹ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊺ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊻ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊼ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊽ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊾ 秋のふしをあらわすひたつた物語り
 ㊿ 秋のふしをあらわすひたつた物語り

△村を其處より或る今更ふとありてはさるるありや

「いりてをよ」

⑥ 心乃を後し心深とせ

「心あひの風」

⑥ 小圃より東風とあひの風とまへの中

ま乃よりいりんとく心あひの風とせり

「夜よとせよ」

② 夜の夜とせよとせよ

「物もとせよ」

② 物もとせよとせよ物のもあつとせよ

△あつたのあつたまへに物もあつたあつた

〇〇

「いりてをよ」

⑥ 井乃君と大和あつてまへに

まへにまへにやまへにまへにまへに

△まへにまへにまへにまへにまへに

「あつてをよ」

⑥ 井乃君と大和あつてまへに

「えやいよ」

⑥ まへにまへにまへにまへに

えぬとせよとせよえぬとせよ

「えおよ」

⑥ 縁あつて他へえやいよ

ふとららいつてとせよとせよ

小奇と信と又いよとせよ

「えぬのりよ」

⑥ 九門の枝とえぬと

「えぬとせよ」

⑥ えぬとせよとせよ

「えぬとせよ」

⑥ えぬとせよとせよ

△えぬとせよとせよとせよ

「えぬとせよ」

⑥ 縁あつて他へえやいよ

えぬとせよとせよとせよ

一 えびのうらハ ㊦ 家紋香と云ふは、
 えびのうらハ 方ニ曰 戸^ニ 香^ニ 既^ニ 香^ニ 白檀^ニ 也^ニ
 けや入るやとよりとどき時三葉と云ふは、
 一 えおまきまきれハ ㊧ えおまき面白く、
 一 えびりよ ㊨ 夫と云ふは、又いふは、
 一 えぬハ ㊩ 夫り多たを、
 一 えあーあはハ ㊪ えんあはえあーあは、
 一 えびさあハ ㊫ ひうさあ、
 一 えおのさあハ ㊬ 圖は、

一 枝とかんハ ㊭ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊮ 是れ乃、

○て

一 えおのさあハ ㊯ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊰ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊱ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊲ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊳ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊴ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊵ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊶ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊷ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊸ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊹ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊺ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊻ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊼ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊽ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊾ 是れ乃、
 一 えおのさあハ ㊿ 是れ乃、

一「あさくれぬ」① 天子の初ハツの儀ノに 寄ル初ノ儀ニ

△何と只よる此等りの初ハツ儀ノもよもやれぬ人々もあらん

一「あぢさゝの」① 己ミん門カドをたててひのしの初ハツ儀ノをたて

一「あぢり」① 細コ代トと云ふとれるなりと興ウツたちが

らうしわづら打ウち秋アキくららあふれ田イハとわづら

興ウツとんあふり初ハツ儀ノわづらあふ日ヒ次ツギ

興ウツとんも初ハツ儀ノのよも源ヒナ乃ハ仲ナカ孫ムスがら川カハのい

とよもあふりかひたての儀ノもよもあふり

△細コ代ト木キふフりわづらあふ初ハツ儀ノと云ふも初ハツ儀ノをた

△あふり木キはひヒとよも初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

一「あつとたのむとり」① 昔ムカシ得トク自ミ為ニ初ハツ儀ノ又マタ母ハハと云ふ

△あふり木キのよも初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

一「あぢり」① ころく初ハツ儀ノと付ツく道ミチ今イマ初ハツ儀ノをた

うたわづらあふり初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

一「あつとたのむとり」① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

△あつとたのむとり① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

△あつとたのむとり① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

一「あつとたのむとり」① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

△あつとたのむとり① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

△あつとたのむとり① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

△あつとたのむとり① 初ハツ儀ノのよもあふり初ハツ儀ノをた

「あまのひびく」
① 竹かき 産子のかきれと 勢也 二

「あまの川」
② 樹中の勢川へ入は 國ふら

「あまのくさ」
③ さわく されくさあり

「あまのくさ」
④ 夏みより 家なるし

「あまのくさ」
⑤ あくまめと云 何 あまのくさ

「あまのくさ」
⑥ 世中いあくま あまのくさ

「あまのくさ」
⑦ 燧とむらび あまのくさ

「あまのくさ」
⑧ 燧とむらび あまのくさ

「あまのくさ」
⑨ 井とくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑩ 羅波江の物 あまのくさ

「あまのくさ」
⑪ あやふ あまのくさ

「あまのくさ」
⑫ 日か あまのくさ

「あまのくさ」
⑬ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑭ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑮ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑯ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑰ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑱ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑲ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
⑳ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
㉑ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
㉒ あまのくさ あまのくさ

「あまのくさ」
㉓ あまのくさ あまのくさ

〇 巻目

百九十一

一 おげくとよ ① 松林小権物し人主小権よ方も同じ

一 七条かえと字 ② 井と云て申おた名のとふかりに

一 天乃戸よ ③ 天の申しゆりといふんぬふ戸と云り

△ 天乃成ゆりのちまをり神よれ月乃成と云まら

一 おのま琴今よ ④ 和琴今ありと云あけまとも云

一 おおとよとよ ⑤ あう整えし松林松林乃と云

一 ありとよとよ ⑥ あり神のまはち

一 まねりとよとよ ⑦ ちまぢんと云る本いさ乃まねり

△ 兼りあまねりとの下座とあまねり松のまふゆりぬ

一 おさりとよ ⑧ いさりのたまえおまねりかろりこさあり

云名抄ふありと云はる松あさりと云くふと云る松い

とりのと云はる松乃あまねり松ありと云

一 ありのむとよとよ ⑨ 鶴村多と云小多あり招かた物ふ

てうらひれてと云に松と云る松松ふたし又小松と

△ 松乃雲もあして半天ふ一筋より松あらのむと云

一 おんさとよとよ ⑩ 彼と云あり 松松松松と云り

一 あととよとよ ⑪ 何多かり網と云る松のまをと云

△ 在山の雲乃あま多まはくふかかれあられけり又月夜

一 おいとよとよ ⑫ 是松 松松と云候松松と云ふ

あいとよとよと云る平松松と云り松松松と云る

ふ云り又西風よ松松と云る松松と云る松松と云る

一 あやいとよとよ ⑬ えんはらりと云ふ松と云

一 物おれとよとよ ⑭ 物おれと云松あり 松松松と云る

一 あられとよとよ ⑮ 正月十四日節と云 踏節 十六日女踏節

松林

松林

一 阿さうかざりよ ④ 格をいあぞくくさりこむり

一 阿まれえつりよ ⑦ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑧ 阿まれ物ふりやう

△ 阿まれ物ふりやう 又 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑨ 阿まれ物ふりやう

△ 阿まれ物ふりやう 又 阿まれ物ふりやう

△ 阿まれ物ふりやう 又 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑩ 阿まれ物ふりやう

△ 阿まれ物ふりやう 又 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑪ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑫ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑬ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑭ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑮ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑯ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑰ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑱ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑲ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ⑳ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉑ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉒ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉓ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉔ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉕ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉖ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉗ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉘ 阿まれ物ふりやう

一 阿まれえつりよ ㉙ 阿まれ物ふりやう

美物ありと云せふも物也 和泉志云ふいありり
まきぐらふたふれいーそれいふわらうらうのれあて
とふ物とかりとく打ひてまきぐらふらほふれい
いふまきぐらとてわくこれあていふ物とていふのちと
△時ぬとらひぬの山のちらとてむとりよりおひ物也 和泉志

「あまのひら」

⑦ あまのひらとあり 合強

「あまのひら」

⑦ 徳とら男と云り

「あまのひら」

⑦ 簀と云作中と云ら物也 物と云ふ

「あまのひら」

⑦ 浅謀と云あまのひらとあり 浅謀

「あまのひら」

⑦ あまのひらとあり あまのひら

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

△おまのひらと云はれぬと云ら物と云ら おまのひら

△おまのひらと云はれぬと云ら物と云ら おまのひら

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あまのひら」

⑦ 和泉と云又和泉と云 和泉

「あどむねとてなれ」④四月朔日ふ大内ふうけのみあり

「秋しもれ」⑤秋しとわれびくまきり

△池乃かり光乃清に秋しもれいふまきりし月とまゆ

「あそと」

⑥初長とまきりし池田のあそと魚づりねわ

そやのしれあそとまきり又いし地しりふもろ

「あまがの」

⑦男まの三歳ふあひの幸の付小車

ふ余らくとあまがのいふ又人おあり
三つふてかふま
てうのああり

「あしづの」

⑧只はるるりし

「あやまの」

⑨あやしとくふ細し

△あつてふの付い白妙乃袖かとのそをあまきりねわ

△冬くれ雲の上まきりまきりあまのあやまきりねわ

「あしづの」

⑩草乃しれ中れあはくすれ地と

△雑は海井はむき乃ありつひのひふもれあまきり

「あしづの」

⑪去との松樹の地ろりし

「あそと」

⑫あつてあまきりし

△あつてあまきりし

「あつてあまきりし」

⑬あつてあまきりし

△あつてあまきりし

「あつてあまきりし」

⑭あつてあまきりし

「あつてあまきりし」

⑮あつてあまきりし

「あつてあまきりし」

⑯あつてあまきりし

△あつてあまきりし

△あつてあまきりし

の巻目

一冊

一 おやがよ

④ あやの下の町又大切な道と云り

△ 舟りぬきくさのも持いかう教へて来ておを根に置く

△ 白ひびく風ふるふた梅ささるあやがわだのりりりり

一 おあかしくよ

④ 慈心なれと云ふしおあかしくよ

一 おりうりよ

④ よろしくおあかしくよ

△ 月うらなの中を出入りして行時よや妹おあかしくよ

一 おとがづりよ

④ じごまたかづりよ

一 おまねのりよ

④ 二井おまねのりよ

一 おまねいりりよ

④ 天川長流の町おまねいりりよ

一 おまねのりよ

④ 美乃おまねのりよ

△ 鹿立おまねのりよと云はれどうらのまゆりよ

一 おまねのりよ

と後うれはなり

一 おまねのりよ

④ うらなれおまねのりよ

△ 何うまじい妙がほふおまねのりよ

一 おまねのりよ

④ 美乃おまねのりよ

△ 沖津御おまねのりよと云はれどうらのまゆりよ

一 秋津御よ

④ うらなれおまねのりよ

一 おまねのりよ

④ おまねのりよ

一 おまねのりよ

④ 美乃おまねのりよ

△ ちちらひぬらもあやめと云も同どるし

一 おまねのりよ

△ 人乃あまらぬしおまねのりよ

一 おまねのりよ

④ 美乃おまねのりよ

あやしくもふらんあやしくも是又半一さふもろ

△折られたぬきぐさの色世にまき抱きあやしくあやしくのたのしみ

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

あやしくもふらんあやしくもはと知れぬごとくともはれぬあやしくも

あやしくもふらんあやしくもはと知れぬごとくともはれぬあやしくも

あやしくもふらんあやしくもはと知れぬごとくともはれぬあやしくも

あやしくもふらんあやしくもはと知れぬごとくともはれぬあやしくも

△待宵のひびきさうさうや吹風おぼろのついでとあやしくも

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

あやしくもふらんあやしくもはと知れぬごとくともはれぬあやしくも

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

あやしくもふらんあやしくもはと知れぬごとくともはれぬあやしくも

△若く梅の花枝にわらわくはなはなあやしくも

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

「あやしくもふらんあやしくも」（帝装） あいあやしくも（重相）

△まてももさくふ年のあやしくもあやしくもあやしくも

△月も目もあやしくもあやしくもあやしくもあやしくも

一 おどれたまやトハ ④ 妻^{トカ}主^ニあり

一 おのりまやトハ ④ 門^{モシ}板^{イシ}石^ニま^ヤと^ハ阿^ア麻^マと^ハ云^ク結^ヒ末^マ也^カ

一 おむしやトハ ④ ち^チ乃^ノま^マと^ハし^シり^リを^ヲの^ヲま^マふ^フ也^カ

一 かの丸やトハ ④ 芦^{アサ}中^{ナカ}く^クお^オひ^ヒり^リ小^コ庭^テの^ヲま^マふ^フ也^カ

一 かの乃夫トハ ④ 追^ツ儼^イふ^フ鬼^キと^ハあ^アる^ル夫^ツあり^リ芦^{アサ}矢^ヤ也^カ

一 おまねくやトハ ④ 繼^ツ子^シは^ハ付^ツ夫^ツあり^リ

一 おりやあやトハ ④ 業^ノ年^{ネン}於^ニあ^ハれ^レ外^ヲふ^フ也^カ也^カ

一 おかゆえやトハ ④ 夕^ツ芳^ホふ^フと^ハひ^ヒか^カる^ルま^マと^ハ川^{カハ}然^ニ友^ト飲^ムあり^リや^ヤあ^アや^ヤ

一 おどと山トハ ④ 海^{ウミ}波^{ナミ}乃^ニう^ウし^シと^ハ一^{ヒト}わ^ワと^トう^ウた^タ山^{ヤマ}

一 おどむれ山トハ ④ 小^コ曾^{ソウ}に^ニま^マと^ハと^トあ^アる^ル山^{ヤマ}の^ノあ^アる^ル也^カ

又日冊後乃終而大翁名不^レ用^フ也

一 妻柳のうき山トハ ④ 此^{コノ}妻^メ柳^{ヤナギ}乃^ニう^ウき^キと^ハ云^ク松^{マツ}約^{ヤク}なり

此^{コノ}う^ウき^キと^ハ云^クふ^フわ^ワら^ラず

一 おかえ後トハ ④ 山^{ヤマ}乃^ニ柳^{ヤナギ}と^ハ云^クふ^フわ^ワら^ラず

△ 妻柳乃うきと山乃水^{ミヅ}に^ニ見^ミえ^エる^ルを^ヲあ^アり^リふ^フわ^ワら^ラず

△ 山^{ヤマ}乃^ニ水^{ミヅ}に^ニ見^ミえ^エる^ルを^ヲあ^アり^リふ^フわ^ワら^ラず

一 おかえ後トハ ④ 白^{シロ}地^チと^ハ云^クわ^ワり^リ神^{カミ}多^タる^ル也^カ

△ 山^{ヤマ}乃^ニ水^{ミヅ}に^ニ見^ミえ^エる^ルを^ヲあ^アり^リふ^フわ^ワら^ラず

一 おらびと山トハ ④ 光^{ヒカリ}陰^{カゲ}乃^ニう^ウし^シと^ハ一^{ヒト}わ^ワと^トう^ウた^タ山^{ヤマ}

△ 山^{ヤマ}乃^ニ水^{ミヅ}に^ニ見^ミえ^エる^ルを^ヲあ^アり^リふ^フわ^ワら^ラず

一 おめれと山トハ ④ 車^{クルマ}乃^ニあ^アり^リふ^フわ^ワら^ラず

〇 終身 一 十

△おれは後れおれ車よりけりてまらたまの引物えん

一わがわたま^{トハ} ⑤ 車と云 一わがよハ車^{トハ} ⑥ ちよと云

△おれより何れわたま乃様どおれを申もどくこころうら

一わがけ^{トハ} ④ あざあざり気なり

一わがけ^{トハ} ④ おれと云るし但懐おあきけけと

ありとかりてしむと云るやと云るおれいねと強りす

一わがけ^{トハ} ④ 子親けはおれけおれつるおれつるらんわさあやとらん

一わがけ^{トハ} ④ おれと云何れおれけも何れおれ合ん

一わがけ^{トハ} ④ 朝多けおれつるおれつるおれつるおれつるおれつる

一わがけ^{トハ} ④ おれおれり何れおれと云何れおれと云何れおれと云

△おれ海おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ 十昏より何れ月と云 最明と云

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

一わがけ^{トハ} ④ おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

△ 後されてのりりてはさし山杖をさす此は井井垣

一 青あはてし ① 青丹本まこ ちまの幣あり

一 おひしき ① およろこひて急ぎ候あすなり

一 おまはる ① おまはれ海ぬ入付はゆく候と打入と

さうさういふ又八雲 梅はたすさういふ 呪呪と

る町もさうさういふとさうさういふとさうさういふ

△ 後出の花のさうりおあはれおまこさうさういふとさういふ

一 おまはれ ① 丹波の石雨救世の戸た云 雲双の表地

△ 鳥海の人おんさむや松のさし下 松葉をさすおまはれ

一 おあはれ ① ありきし川 一 おあはれと ① 流るる

△ 舟入の候おまはれおあはれおあはれおあはれおあはれ

一 おまはれ ① 塩焼より灰とさうさういふ松りども

△ 秋意のわまはれとさうさういふ松りども

一 輝乃七 ① ありきし川 一 おあはれと ① 流るる

一 おあはれ ① 輝乃七 右様太極 右様太極

一 おあはれ ① 輝乃七 右様太極 右様太極

一 おあはれ ① 輝乃七 右様太極 右様太極

△ 後出の松のさうりおあはれおあはれおあはれおあはれ

一 おあはれ ① 輝乃七 右様太極 右様太極

一 おあはれ ① 輝乃七 右様太極 右様太極

一 天津月 ① 天子乃信使ふつたさうさういふ

一 おあはれ ① 山と云松観し 一目来をさしと

「あめめく」① あれくこめめくさるし奥列中

まひらの體ダウロ備ふりまらる落れ風スキふやれて落タラシ

秋風のほちつけてもあめめくくやしくさつたのめめ

おれはなつて落れまらる 毛葉平チハヒラ北キタ実方ミカタ吹フク

「あめめく」② 秋乃浦アキノウラふりまらるあめめくさるし奥列中

「あめめく」③ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」④ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑤ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑥ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑦ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑧ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑨ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑩ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑪ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑫ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑬ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑭ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑮ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑯ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑰ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑱ あめめくあめめくさるし奥列中

「あめめく」⑳ あめめくあめめくさるし奥列中

古
△美の山々からあふく揚るる社々たるものやうか
指 △白ひい同くそふを梅茶さるる人あやあやだらうら

「あさひの山々」
① 漬る漬 漬落をさあこまの口つた

やとら源一とあつむ花の弁し 迷障のむし

△濱よりやま下陰の石落あいらしれ人の老とらん

△濱よりやま下陰の石落あいらしれ人の老とらん

「あやうら」
② あやうらうらうらうら塵とちり

「ありあ」
③ 蟻ごとのの形とて 紀伊國ふる

まゝのら徳が納まが花茶紙よるる非茶

△七の山々からあふく揚るる社々たるものやうか

△むらさきあやももあふく揚るる社々たるものやうか

「あさひの山々」
④ 練りては國のあやうらあやうらあやうら

「あやうら」
⑤ 善丹之深まの善とて 紀伊國ふる

「あやうら」
⑥ あやうらあやうらあやうらあやうら

天のうらうらうらうら 天の川あやうらうら

△美の山々からあふく揚るる社々たるものやうか

「あやうら」
⑦ 二部乃あやうらあやうら

「あやうら」
⑧ 何れもあやうらあやうらあやうら

△松のうらうらあやうらあやうらあやうら

「あやうら」
⑨ 芦葉くは夫城のあやうらあやうら

「あやうら」
⑩ 登れくあやうらあやうらあやうら

「あやうら」
⑪ 登れくあやうらあやうらあやうら

「あやうら」
⑫ 紀伊國とてあやうらあやうら

「あやうら」
⑬ 紀伊國とてあやうらあやうら

一 ありてす ④ 日とつくる花のきふちりし

△ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

△世中とあるていふありてす物目井の目教の二語

一 ありてす ④ ありてす 中まへてありてす

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

〇

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

△ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

真じつあり

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

△ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

一 ありてす 物目井の目教をきふ物めやらん

白蛇のいさむらしてんあおし白くはあてるとまてん

① 世にまのれもし すれあつひと

② さいりあじうし ちどり

③ 美泉乃子 し 祢女あり

④ さあふんはとまると 不義とく

さあふんはとまると いのがれぬ

⑤ あふんは いぬの

⑥ ぶんとま 河のま

ま いふり

⑦ 橋 あふん

△ あふん

⑧ 松橋 密信

⑨ 東 あふん

△ あふん

△ あふん

⑩ さいり あふん

⑪ さいり あふん

⑫ さいり あふん

⑬ さいり あふん

△ あふん

△ あふん

△ あふん

⑭ さいり あふん

⑮ さいり あふん

とらぬとく物し耳むたぬどやううううううう

梅^{ササキ}と^{ササキ}花^{ハナ}と^{ハナ}紅^{ベニ}梅^{ウメ}花^{ハナ}草^{クサ}梅^{ウメ}花^{ハナ}

△梅^{ウメ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△見^ミし^シの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△川^{カハ}と^{カハ}新^ニ河^{カハ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△さ^サの^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

△秋^{アキ}と^{アキ}の^{ハナ}あり^{ハナ}の^{ハナ}あり^{ハナ}

過すもさぬらうひくろを借ぐれうへにせらる

一 三郎いしよハ

⑦ さだまさり サカシラ

一 三郎いしよハ

⑧ 洗をまし坊 サカシラ

一 三郎いしよハ

⑨ さあぐくと去判又たさすくとま

△又それひれゆるけのふれがらふらぬまげあやけ

△これが社どうどとあつて右のふれがらふれま

△掃き サカシラ

一 三郎いしよハ

⑩ 高木又高木 サカシラ

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

一 三郎いしよハ

⑪ ろられらるとあり

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

一 三郎いしよハ

⑫ 万葉ふるとあり サカシラ

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

一 三郎いしよハ

⑬ のさあぐんとあり サカシラ

△今社われれも昔ハ男山とあり

一 三郎いしよハ

⑭ さあぐんとあり

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

一 三郎いしよハ

⑮ 伴あり内とあり

一 三郎いしよハ

⑯ 毎にあり サカシラ

一 三郎いしよハ

⑰ さあぐんとあり サカシラ

一 三郎いしよハ

⑱ 虎杖あり サカシラ

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

△さあぐんとあつたの極めをそれよま

一 三郎いしよハ

⑳ さあぐんとあり サカシラ

とせなくゆりぬあまのゆくとされば一たれらにまはら
ふありてふれふりかざりありまればこふらりたり
△此目乃一匹の虎杖を煮てあまのぶらぬあまの煮
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て

△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て

△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て

△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て

△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て
△あまのこふらりてあまの煮てあまの煮てあまの煮て

の巻目

心を憐れむ言非と但し先例あり能はらざる
 神の踏躑と云。光原氏と傳へ流るるもの一付

① 流人乃神した遷と云又乃乃乃乃
 △此のからくまると人の大なるやうにうね鏡の影のあり
 形、挑小石基中納と乃配不乃月飛あてえんとき
 △飛あてえんとき、ふりか月の影、昔人の空もまなり宵火

② 吟と云、柱山のゆゑ
 △流人の影とはその影と後とさうなふあふいせん我

③ 龍二人の男ふあうれ女うくかこあ
 林乃申ふゆくまふくびとけしてあたり二人の男か
 けいと奇とくそくそくといふ人ゆり奇林こも
 △まぶれのかざいふせんとおまひの梅の葉のあふくうか
 △いろうるあけらる梅花さうつふやふんやまのめ

④ 龍生事た
 △まぶれのかざいふせんとおまひの梅の葉のあふくうか

⑤ 龍にこあさうりてさあなり
 △いろうるあけらる梅花さうつふやふんやまのめ

⑥ 龍にこあさうりてさあなり
 △いろうるあけらる梅花さうつふやふんやまのめ

⑦ 龍にこあさうりてさあなり
 △いろうるあけらる梅花さうつふやふんやまのめ

⑧ 龍にこあさうりてさあなり
 △いろうるあけらる梅花さうつふやふんやまのめ

只れめの号ニハ云哉之通一切前せしと云り又云り
 △かゝる心をやらぶるの心と云ふも亦いふあり
 △只れちるちらぐらふれし心と云ふ世中にあらんかふりハ
 一 只れちる心ト云 ① 松木ト云 一 心と云ふト云 ② 若しあり
 一 只れちる心ト云 ③ 荀氣乃乃何時流くハ九百七十
 一 只れちる心ト云 ④ 愚乃字心 五祥ハ 愚乃心
 一 只れちる心ト云 ⑤ 正月ト云 一 心と云ふト云 ⑥ 二月ト云
 一 只れちる心ト云 ⑦ 八月ト云 一 心と云ふト云 ⑧ 八月ト云
 一 只れちる心ト云 ⑨ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑩ 心と云ふト云 一 心と云ふト云

△ 只れちる心ト云 ⑪ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑫ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑬ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑭ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑮ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑯ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑰ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑱ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑲ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ⑳ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉑ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉒ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉓ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉔ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉕ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉖ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉗ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉘ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉙ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉚ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉛ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉜ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉝ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉞ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㉟ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊱ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊲ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊳ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊴ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊵ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊶ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊷ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊸ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊹ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊺ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊻ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊼ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊽ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊾ 心と云ふト云 一 心と云ふト云
 △ 只れちる心ト云 ㊿ 心と云ふト云 一 心と云ふト云

③ 乃延神ノノノカミ 後逢坂ノノノカミ ちう神チウノカミ

④ 山川の西神ヤマカハノニシノカミ 大津オホツ 毛モ とりトリ ま

⑤ 細波ホソナミ 一イチ さうソウ ドド とト ⑥ まマ のノ こコ と

⑦ 天テン 平ヘイ 子コ をヲ かりカリ とト 門カド とト 云クモ もモ 家ケ 事コト あり

⑧ 只ただ 礼レ 祭サヒ こコ 又マタ 天テン 月グツキ 毎ツネニ のノ ゐア りリ とト 云クモ り

⑨ 百ヒャク 練レン 佳ケイ とト 云クモ 五月イツノイハヒ 九ク 乃ノ 乃ノ 時トキ にニ あり

⑩ さサ びビ こコ さんサン さんサン びビ こコ すス ちチ あり

⑪ 細ホソ 少シヤウ 石イシ とト 云クモ ちチ のノ さサ ねネ 石イシ

△ 妻ウメ がガ ちチ うウ やヤ ちチ ゑエ ねネ 石イシ のノ 教シヨウ ありアリ 七シチ 昔コノムネ のノ 事コト ぞ

⑫ 小國コクニ ふフ ありアリ

⑬ さサ けケ のノ 時トキ ⑭ さサ ぐグ のノ 時トキ ⑮ 志シ 女メ とト 又マタ 母ハハ 又マタ 母ハハ たタ とト 云クモ り

ナリヲ至ルコトハ定處ニ當ルモノハ終ニ終ル所ニ止ルコトナリ
さぐりのい子孫女子あり不番に女あり其終もさくとは
去年とわづかしづりも有ふ

△ 今イマ えエ とト のノ 時トキ 也ヤ 命イハ 中ナカ 松マツ 小コ 多タ 事コト ありアリ

① 昔コノムネ のノ 時トキ 今イマ えエ とト のノ 時トキ 又マタ さサ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

② さサ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

③ つツ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

④ さサ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

⑤ さサ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

△ さサ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

⑥ さサ ぐグ のノ 時トキ 又マタ 母ハハ がガ よヨ りリ 云クモ り

くろく短と新のしとくくとまみころす

「さくもよ」① 森原の舟「さくもよ」② 藤と（さくもよ）と（さくもよ）

「さくもよ」③ 後夜ととでた夜し（さくもよ）と（さくもよ）

「さくもよ」④ ぬれ山門の山門ひとりのさくもよ

「さくもよ」⑤ ぬれ山門ふらされはるさくもよ（さくもよ）

「さくもよ」⑥ 横沢の池に舟とあげてたふさくもよと山門（さくもよ）

「さくもよ」⑦ 舟ありてさくもよ池れさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑧ 舟ありてさくもよ池れさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑨ 舟ありてさくもよ池れさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑩ 舟ありてさくもよ池れさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑪ 舟ありてさくもよ池れさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑫ 舟ありてさくもよ池れさくもよ舟幸（さくもよ）

○たれ

「さくもよ」⑬ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑭ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑮ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑯ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑰ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑱ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑲ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」⑳ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」㉑ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」㉒ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」㉓ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「さくもよ」㉔ 山嶽の舟ありてさくもよ舟幸（さくもよ）

「イノあつらりよ ⑩ 夜肥イノきい月乃夜と夜とイノ

「イノおのりよ ⑪ かイノりは時イノりイノ月イノにイノ

△イノもやゆイノるイノれイノ山イノあイノるイノれイノ袖イノあイノひイノとイノびイノきイノるイノるイノ

「イノえイノりイノよ ⑫ 露イノのイノ滴イノくイノ又イノ拾イノくイノ

△イノおイノ露イノのイノ地イノはイノほイノるイノたイノとイノまイノはイノとイノ滑イノりイノるイノるイノ

「イノあイノゆイノりイノよ ⑬ 月イノ限イノとイノうイノてイノいイノらイノるイノらイノ

△イノ志イノ中イノはイノれイノがイノ出イノるイノ物イノとイノまイノらイノらイノるイノのイノれイノ底イノのイノ起イノるイノ

「イノあイノつイノきイノよ ⑭ 多イノれイノたイノとイノ敷イノ安イノ無イノくイノ

「イノあイノつイノきイノよ ⑮ 風イノ圃イノをイノりイノ聖イノ代イノ小イノ出イノ現イノとイノ徹イノ書イノ記イノ

△イノ中イノくイノあイノつイノきイノをイノらイノせイノ相イノらイノくイノとイノ拾イノくイノとイノ秋イノのイノれイノ月イノ
△イノ奇イノ代イノのイノ乳イノとイノ情イノらイノぬイノたイノ透イノせイノれイノたイノれイノがイノ
七月イノ五イノ条イノあイノらイノぬイノ

△イノ中イノくイノあイノつイノきイノをイノらイノせイノ相イノらイノくイノとイノ拾イノくイノとイノ秋イノのイノれイノ月イノ

△イノ奇イノ代イノのイノ乳イノとイノ情イノらイノぬイノたイノ透イノせイノれイノたイノれイノがイノ
七月イノ五イノ条イノあイノらイノぬイノ

「イノあイノつイノきイノよ ⑯ コイノウイノウイノクイノキイノヤイノリイノ

「イノあイノつイノきイノよ ⑳ 萩イノ高イノし 一イノ夜イノ乃イノあイノるイノよ ⑳ 忘イノれイノたイノかイノ茶イノ

「イノあイノつイノきイノよ ㉑ 所イノ々イノとイノ又イノあイノらイノんイノ

「イノあイノつイノきイノよ ㉒ 知イノりイノれイノくイノよ ㉒ 知イノりイノれイノくイノよ ㉒ 知イノりイノれイノくイノよ ㉒ 知イノりイノれイノくイノよ

「イノあイノつイノきイノよ ㉓ 菊イノ乃イノあイノらイノよ ㉓ 菊イノ乃イノあイノらイノよ ㉓ 菊イノ乃イノあイノらイノよ

△イノあイノつイノきイノをイノらイノせイノ相イノらイノくイノとイノ拾イノくイノとイノ秋イノのイノれイノ月イノ

「イノあイノつイノきイノよ ㉔ 出イノ陣イノのイノ名イノ下 ㉔ 出イノ陣イノのイノ名イノ下

△イノ世イノ中イノのイノかイノらイノくイノとイノへイノりイノあイノつイノきイノをイノらイノせイノ相イノらイノくイノとイノ拾イノくイノとイノ秋イノのイノれイノ月イノ

「イノあイノつイノきイノよ ㉕ 櫻イノ葉イノをイノらイノよ ㉕ 櫻イノ葉イノをイノらイノよ

△秋のつらね下中くま志見と二月の六
西行
② 佐流の 櫻 丸木抄 麻衣

△名ひまきま麻衣わさねとやびと神代さるる
③ 夜と打く秋しとるも打くも日

△ふまの橋の善に友きて物さふ袖にあそぶ
④ 秋乃をあり

△まきさのゆきをの八重鹿音のふきもあそぶ
⑤ 秋乃をあり

△ささののほね⑥ 秋乃をあり
⑦ 秋乃をあり

△ささののほね⑧ 秋乃をあり
⑨ 秋乃をあり

△ささののほね⑩ 秋乃をあり
⑪ 秋乃をあり

△ささののほね⑫ 秋乃をあり
⑬ 秋乃をあり

△ささののほね⑭ 秋乃をあり
⑮ 秋乃をあり

△ささののほね⑯ 秋乃をあり
⑰ 秋乃をあり

△ささののほね⑱ 秋乃をあり
⑲ 秋乃をあり

△ささののほね⑳ 秋乃をあり
㉑ 秋乃をあり

△ささののほね㉒ 秋乃をあり
㉓ 秋乃をあり

△ささののほね㉔ 秋乃をあり
㉕ 秋乃をあり

△ささののほね㉖ 秋乃をあり
㉗ 秋乃をあり

△ささののほね㉘ 秋乃をあり
㉙ 秋乃をあり

△ささののほね㉚ 秋乃をあり
㉛ 秋乃をあり

△ささののほね㉜ 秋乃をあり
㉝ 秋乃をあり

△ささののほね㉞ 秋乃をあり
㉟ 秋乃をあり

一 三つうんハ

△ちぢり修まううく舟のぢら喜と何の修や友とせん

一 三つかりハ

△あさちりし船のあさちり白あのとけりあまをこをさちり

一 三つ丸どれハ

△あさちりや一本の丸あま救世の各家とつづけるは

一 三つやハ

しとてふてあちりり何しやとてやんと字を抽くはあ
まくとめてあしとせしあまは倍の何し又一字のこり
たりとてあしとせしあまは倍の何し又一字のこり
何れのものせしと月かやとせしあまは倍の何し又一字のこり
あまは倍の何しと月かやとせしあまは倍の何し又一字のこり

てふとあちりり何しとてやんと字を抽くはあ

まくとめてあしとせしあまは倍の何し又一字のこり

たりとてあしとせしあまは倍の何し又一字のこり

何れのものせしと月かやとせしあまは倍の何し又一字のこり

△年ハけてあまハ一とせしあまは倍の何し又一字のこり

白ニ名くれしやあまは倍の何し又一字のこり

一 三つあひるハ

△あまは倍の何しと月かやとせしあまは倍の何し又一字のこり

一 三つあまハ

△あまは倍の何しと月かやとせしあまは倍の何し又一字のこり

一 三つあまハ

△あまは倍の何しと月かやとせしあまは倍の何し又一字のこり

△カサノツクリ

△カサノツクリ 昔あるにまのしに長くもつとやのいんはり

△カサノツクリ

① ねあぢれなふるまはらうし

△カサノツクリ

② 夏にふる耐えん物に製もあつたをたじ

△まらちまの製ゆもいふつらのはらうしやあんまのいんはり

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

③ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

④ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑤ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑥ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑦ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑧ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑨ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑩ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

△カサノツクリ

⑪ ねあぢれなふるまはらうし

△ねあぢれなふるまはらうしに沈み物ぞあつくりまの製

カサノツクリ

カサノツクリ

カサノツクリ

カサノツクリ

後系後乃奇小

△あまのく言はぬ山木もろれきりあまのく入るまに
 ① ぬるいさるよ
 ② ゆんさるのり
 ③ ぬるいさるよ
 ④ ぬるいさるのり
 △從量の世の安をれと皆人の世の安をれとせしむ
 △皆人の世の安をれと皆人の世の安をれとせしむ
 △一巻の世の安をれと皆人の世の安をれとせしむ
 ① ゆるいさるよ
 ② 若くは、
 ③ 若くは、
 ④ 若くは、
 △ゆらゆらと
 △ゆらゆらと
 △ゆらゆらと
 △ゆらゆらと
 △ゆらゆらと

① 夕日や花乃志れよ
 ② 揺たて夕日の出てあれど時ぬ
 △けさよりあつこの橋をたつた夕日や花のぬる
 △家より指乃夕日教きて揺たつた花の志れよ
 △無明の夕日教きて揺たつた花の志れよ
 ① ゆらゆらと
 ② 揺たて夕日の出てあれど時ぬ
 △天の夕日や花乃志れよ
 ① 揺たて夕日の出てあれど時ぬ
 △ゆらゆらと
 ① ゆらゆらと
 ② 揺たて夕日の出てあれど時ぬ
 △ゆらゆらと
 ① ゆらゆらと
 ② 揺たて夕日の出てあれど時ぬ
 △ゆらゆらと
 ① ゆらゆらと
 ② 揺たて夕日の出てあれど時ぬ
 △ゆらゆらと

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

一 御書に

一 御書に

△公家から賜りし御書に書るるおん御書の御こと

△七々おねのねてくもぐらゆしきかんをほけ袖

「ゆふたさたよ」

① 律未服のよふかろき 七つはたまふ

「女どごらたよ」

② 着方ふじひのさりい いさまほこめたん

△あひるろきれ奴乃様栄しものをあらむらぶりた

「ゆれはたれよ」

③ 紀列あり 解代よりちり

△ゆれはたれはる舟入むらとふけあもさるおきれたらふ

△たふれ自ひも夢ももあふれゆれはたれはる日さ

「ゆはのりくく」

④ 痛因堪乃様 又無夫の別のくもぢり

「養のうれもくよ」

⑤ くも養とのああり

△まのよね養のうれ格とふく 養はるくく 扶雲のさく

「女はくひよ」

⑥ 女自 けつはよひのひのま月かり女自

△女はくひよ けつはよひのひのま月かり女自

「かへりくもよ」

⑦ 女 き乃のまをかり

△松と松ふ風いとま お、あふおらそくま書ふぬさりか

「けい合乃まよ」

⑧ 苗乃足 さう時さくれ苗と撫さるん

万葉集 おねのあひ乃まよとさ

「あふあせよ」

⑨ あふあせ たがひあふあせ

△あふあせ たがひあふあせ

「あふあせよ」

⑩ 廻 あふあせ

○め

「めおくに」

① かんえあ にこさるん

めあれめあ ふあどこもかんあれんあ

「めもあやに」

② ち めもあやに

「めもころに」③ 月途にめもころふらん〜

又草木乃芽乃らん〜

△津志乃難とれ若めめとるにきけり我人あるも

△飛崎の波も苦めめとるにきけり世に我人あるも

「めら」④ 目傷し目途の面々（目途の面々）

「めら」⑤ 光陰乃あく〜

△長悪ふ心のれて物々のめらるるれ形あ〜

「めら」⑥ 寝又所（寝又所）の字ん何れもあ〜

「めら」⑦ 感懐と去抛（感懐と去抛）〜

「めら」⑧ ちる〜名やられ〜

ありあ〜名中〜

「めら」⑨ あ〜

「めら」⑩ 松風山嵐〜

△さおれた月と合せぬ海の浦も月光輝の山嵐か

△山里乃曉とぬ松風や月差〜

「めら」⑪ 西月之正 月光とれた〜

「めら」⑫ 結とれた〜

△川竹乃〜

△さあれたの枝立〜

「めら」⑬ 物乃〜

△苗と老ハ〜

「めら」⑭ た〜

△よとうをわきまきし人と思ふゆゑに名よをたづねてか
 「めくれせす」
 ② 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ③ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ④ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ⑤ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ⑥ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ⑦ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ⑧ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ⑨ 「めくれせす」は名よをたづねてか
 ⑩ 「めくれせす」は名よをたづねてか

〇 み

「流びら」
 ① 「流びら」は名よをたづねてか
 ② 「流びら」は名よをたづねてか
 ③ 「流びら」は名よをたづねてか
 ④ 「流びら」は名よをたづねてか
 ⑤ 「流びら」は名よをたづねてか
 ⑥ 「流びら」は名よをたづねてか
 ⑦ 「流びら」は名よをたづねてか
 ⑧ 「流びら」は名よをたづねてか
 ⑨ 「流びら」は名よをたづねてか
 ⑩ 「流びら」は名よをたづねてか

「みか」
 ① 「みか」は名よをたづねてか
 ② 「みか」は名よをたづねてか
 ③ 「みか」は名よをたづねてか
 ④ 「みか」は名よをたづねてか
 ⑤ 「みか」は名よをたづねてか
 ⑥ 「みか」は名よをたづねてか
 ⑦ 「みか」は名よをたづねてか
 ⑧ 「みか」は名よをたづねてか
 ⑨ 「みか」は名よをたづねてか
 ⑩ 「みか」は名よをたづねてか

△はあはれどもごまごまのさだめをいひていふにあつりして

一 三ツ角拍ミツツノカバと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

二 三ツ角拍ミツツノカバと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

三 三ツ角拍ミツツノカバと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

四 三ツ角拍ミツツノカバと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

五 三ツ角拍ミツツノカバと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

△林邊や三ツ角の拍ふるさといふとま神のつとまをさう後

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

一 見多の四ミタノヨと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

一 見多の四ミタノヨと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

一 見多の四ミタノヨと云ふは乃拍と云ふは林と云ふ

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

△さうらよりぬきまを川の原ふまうと云ふは乃拍と云ふは

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 戸口の戸口 ①

① 戸口の戸口

一 三つ浦ハ ④ 海松をばね 一 見あつるハ ④ 見あつせし

一 みるかつらハ ④ みるかたは 程と つかうといふ 奥西の形をいふ 形ひあすもろくし 又 橋をいふ

△ みるかたは 又 ぬたのちのち ぬたをいふ ぬたは ぬたのちのち ぬたのちのち

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

△ みるかたは 又 ぬたのちのち ぬたをいふ ぬたは ぬたのちのち ぬたのちのち

△ みるかたは 又 ぬたのちのち ぬたをいふ ぬたは ぬたのちのち ぬたのちのち

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 みるかたハ ④ 海松をばね ④ 海松をばね ④ 海松をばね

一 奥州の山名目録
 ① 奥州の山名目録
 ② 奥州の山名目録
 ③ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ④ 奥州の山名目録
 ⑤ 奥州の山名目録
 ⑥ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑦ 奥州の山名目録
 ⑧ 奥州の山名目録
 ⑨ 奥州の山名目録

△奥州の山名目録
 △奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑩ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑪ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑫ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑬ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑭ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑮ 奥州の山名目録

一 奥州の山名目録
 ⑯ 奥州の山名目録
 ⑰ 奥州の山名目録
 ⑱ 奥州の山名目録

△奥州の山名目録
 △奥州の山名目録

一 水くあびハ ④ かみゆハ

一 水くあびハ ⑤ 水の濃ハと云ハ一ハはゆハ⑥ 木の御ハ

一 水くあびハ ⑦ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑧ 女のハ

一 水くあびハ ⑨ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑩ 女のハ

一 水くあびハ ⑪ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑫ 木の御ハ

一 水くあびハ ⑬ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑭ 女のハ

一 水くあびハ ⑮ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑯ 木の御ハ

一 水くあびハ ⑰ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑱ 女のハ

一 水くあびハ ⑲ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ⑳ 木の御ハ

一 水くあびハ ㉑ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉒ 女のハ

一 水くあびハ ㉓ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉔ 木の御ハ

一 水くあびハ ㉕ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉖ 女のハ

一 水くあびハ ㉗ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉘ 木の御ハ

一 水くあびハ ㉙ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉚ 女のハ

一 水くあびハ ㉛ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉜ 木の御ハ

一 水くあびハ ㉝ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㉞ 女のハ

一 水くあびハ ㉟ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㊱ 木の御ハ

一 水くあびハ ㊲ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㊳ 女のハ

一 水くあびハ ㊴ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㊵ 木の御ハ

一 水くあびハ ㊶ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㊷ 女のハ

一 水くあびハ ㊸ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㊹ 木の御ハ

一 水くあびハ ㊺ 水ハの濃ハと云ハ一ハはゆハ㊻ 女のハ

水

水

水

△麻のくしらすもぶぶぶで付てはさきよりうね後じごころ
 △さきよりさきつたはさく麻のくしらすもぶぶぶで付てはさきよりうね後じごころ
 一 みどらトハ ① ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

ミラキ 白きあけつちりあをねしとせりてさきよにちちねんかえし教ゆ
 一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ
 一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ
 一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ
 一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ
 一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

一 みどらトハ ミラキを食くとさきよにちちねんかえし教ゆ

△三浦山に於ては昔も今も大なる人ありと云へり 傳書
 「三浦の行旅」 ④ あり ⑤ 三浦の山にあり ⑥ 志知し
 「かどろろあり」 ④ 洞あり ⑤ 穴あり ⑥ 穴あり ⑦ 穴あり
 △ 穴あり ⑧ 穴あり ⑨ 穴あり ⑩ 穴あり ⑪ 穴あり ⑫ 穴あり
 洞乃のよほしと云へり ⑬ 穴あり ⑭ 穴あり ⑮ 穴あり ⑯ 穴あり ⑰ 穴あり ⑱ 穴あり ⑲ 穴あり ⑳ 穴あり ㉑ 穴あり ㉒ 穴あり ㉓ 穴あり ㉔ 穴あり ㉕ 穴あり ㉖ 穴あり ㉗ 穴あり ㉘ 穴あり ㉙ 穴あり ㉚ 穴あり ㉛ 穴あり ㉜ 穴あり ㉝ 穴あり ㉞ 穴あり ㉟ 穴あり ㊱ 穴あり ㊲ 穴あり ㊳ 穴あり ㊴ 穴あり ㊵ 穴あり ㊶ 穴あり ㊷ 穴あり ㊸ 穴あり ㊹ 穴あり ㊺ 穴あり ㊻ 穴あり ㊼ 穴あり ㊽ 穴あり ㊾ 穴あり ㊿ 穴あり

△ 穴あり ① 穴あり ② 穴あり ③ 穴あり ④ 穴あり ⑤ 穴あり ⑥ 穴あり ⑦ 穴あり ⑧ 穴あり ⑨ 穴あり ⑩ 穴あり ⑪ 穴あり ⑫ 穴あり ⑬ 穴あり ⑭ 穴あり ⑮ 穴あり ⑯ 穴あり ⑰ 穴あり ⑱ 穴あり ⑲ 穴あり ⑳ 穴あり ㉑ 穴あり ㉒ 穴あり ㉓ 穴あり ㉔ 穴あり ㉕ 穴あり ㉖ 穴あり ㉗ 穴あり ㉘ 穴あり ㉙ 穴あり ㉚ 穴あり ㉛ 穴あり ㉜ 穴あり ㉝ 穴あり ㉞ 穴あり ㉟ 穴あり ㊱ 穴あり ㊲ 穴あり ㊳ 穴あり ㊴ 穴あり ㊵ 穴あり ㊶ 穴あり ㊷ 穴あり ㊸ 穴あり ㊹ 穴あり ㊺ 穴あり ㊻ 穴あり ㊼ 穴あり ㊽ 穴あり ㊾ 穴あり ㊿ 穴あり

△ 穴あり ① 穴あり ② 穴あり ③ 穴あり ④ 穴あり ⑤ 穴あり ⑥ 穴あり ⑦ 穴あり ⑧ 穴あり ⑨ 穴あり ⑩ 穴あり ⑪ 穴あり ⑫ 穴あり ⑬ 穴あり ⑭ 穴あり ⑮ 穴あり ⑯ 穴あり ⑰ 穴あり ⑱ 穴あり ⑲ 穴あり ⑳ 穴あり ㉑ 穴あり ㉒ 穴あり ㉓ 穴あり ㉔ 穴あり ㉕ 穴あり ㉖ 穴あり ㉗ 穴あり ㉘ 穴あり ㉙ 穴あり ㉚ 穴あり ㉛ 穴あり ㉜ 穴あり ㉝ 穴あり ㉞ 穴あり ㉟ 穴あり ㊱ 穴あり ㊲ 穴あり ㊳ 穴あり ㊴ 穴あり ㊵ 穴あり ㊶ 穴あり ㊷ 穴あり ㊸ 穴あり ㊹ 穴あり ㊺ 穴あり ㊻ 穴あり ㊼ 穴あり ㊽ 穴あり ㊾ 穴あり ㊿ 穴あり

△戒教し入るれいとていふくはよにあらうとの訂

△ありのいふびあはふびかむれのよれひのあつちも
「このあよ」⑤ 観音菩薩と一いふかれぬハ⑥ ありあれぬ 行つた
みどりの教トハ ⑦ 六徳の教果てし補ふ月日乃奇

△松申ぶい入るあつちあつち一袖のあつちいぢりなり
「月代衣ト」 ⑧ 兼代衣 ⑨ 兼代衣 兼代衣

△原書れ兼代衣あつちあつちあつちあつちあつちあつち
△せあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

「月代衣ト」 ⑩ 兼代衣 ⑪ 兼代衣 兼代衣
「月代衣ト」 ⑫ 兼代衣 ⑬ 兼代衣 兼代衣

「月代衣ト」 ⑭ 兼代衣 ⑮ 兼代衣 兼代衣
「月代衣ト」 ⑯ 兼代衣 ⑰ 兼代衣 兼代衣

〇し

「月代衣ト」 ⑱ 兼代衣 ⑲ 兼代衣 兼代衣

「月代衣ト」 ⑳ 兼代衣 ㉑ 兼代衣 兼代衣

「月代衣ト」 ㉒ 兼代衣 ㉓ 兼代衣 兼代衣

「月代衣ト」 ㉔ 兼代衣 ㉕ 兼代衣 兼代衣

「月代衣ト」 ㉖ 兼代衣 ㉗ 兼代衣 兼代衣

「月代衣ト」 ㉘ 兼代衣 ㉙ 兼代衣 兼代衣

一 山形および

③ 山形および 山形および 山形および

△ 山形および 山形および 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一 山形および

一志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ
△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

これかたどがむめく後ろ奇おれハうとどがれドーあり

一志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

△ 志の意ハ ① 時多あり志の多たえ

「あつちのうらや」 ④ 志保ま乃直落直ま 志保のうらや

△志保下海老のお敷きく 志保くうぬ直落直ま 西の

△志保の川やまきしたお秋の器や 志保の秋の器や 大甲

「あつちのうらや」 ④ 志保まのたこ 志保もあつちのうらや

「あつちのうらや」 ④ 志保くくく又志保くくく 志保もあつち

△卯ま乃志保くおあつちたぐれは 志保くはまき月夜あつち

△あつちくくくくく 志保あつちあつちあつち梅あつち

「あつちのうらや」 ④ 志保あつちくく 志保あつちあつち

「あつちのうらや」 ④ 志保あつちくく 志保あつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

「あつちのうらや」 ④ 志保あつちくく 志保あつちあつち

「あつちのうらや」 ④ 志保あつちくく 志保あつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△志保あつちくくく 志保あつちあつちあつち

△夏夜の露女海乃産珠と云くはたもあつてはるる
△あつた西の山に雲の巻くやうな色をながめがけのえゆか
「あつた山」

「あつた山」
① 然しとあり

△さうお光のどけいさの目のまげのあつた花の巻ん
「あつた山」
② 然しとあり

△おれ八交おけいさの山排集のまじり思はれ非のまじり
「あつた山」
③ 然しとあり

やーとれ人おあひまの山排集のまじり思はれ非のまじり

△おれ八交おけいさの山排集のまじり思はれ非のまじり
「あつた山」
④ 然しとあり

一 草花の葉より ⑦ 草花の下ふらふ むらさきの葉の下の葉の

一 草花の葉より ⑧ 草花の下枝 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑨ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑩ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑪ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑫ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑬ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑭ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑮ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

一 草花の葉より ⑯ 草花の葉 あまぐいふよやくと何えとの

（徳目）

し 三百四十

一「志づて乃田抄さハ④ハ時多ハ①ハは乃田抄又乃田抄ハ ハ ハ

一「志づくハ⑤ハ新羅田ハ ハ ハ ハ

△男もさハたぬいハ青よりさハたれをハたれをハ経てぬ

一「志げぬハ⑥ハ④ぬれの志げきハ ハ ハ ハ

一「志うハ秘ハ⑦ハ秘心ハ①ハ志たハくハ⑧ハ志たハりハふハ ハ ハ

一「志たハたハ⑨ハ志たハたハ⑩ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ⑪ハぬれハたハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ⑫ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ⑬ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ⑭ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ⑮ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△初とて衣とたふまハかど秋風とてや白川の雲

一「志たハたハ⑯ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ⑰ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ⑱ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ⑲ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ⑳ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ㉑ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ㉒ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ㉓ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ㉔ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ㉕ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ㉖ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ㉗ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ㉘ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△志たハたハ㉙ハ志たハたハ ハ ハ ハ

一「志たハたハ㉚ハ志たハたハ ハ ハ ハ

△賢一とつ入りも酒のそとあひあれたるこまきしほじ
一まんとゆれたよ ① 築地のゆいし 又名あまきり

△佐佐木と年ちうあかたそとれいえんゆれたまじり
一あト ② 清士 本門し 出無火は地ちの役と

△所直ちあれた焼火の兼へいひの清う、惣社と
一あまうひよ ③ 是れあまうひよ

〇〇

一ひのちよ ④ 維多し 紅の酒に維多を 志多きり

一ひのちよ ⑤ 六月朔日天五水とまうそ 維多きり

とひじろのりやま 山陰乃月経し しまぬ風くけり
西のわあはかりし ぐびのほらと志れたまきり

惣社より酒とどにれい 翌六月と清さうしき名居
宇多を 松が崎 粟栖堂 母はみひひらふとまきり

△素秋も枝のかこもあれた物と水あどをれあがり味多
△あまきりまうより酒のそとあひあれたの下風

一ひのちよの圖よ ⑥ 我も 一ひと兵國 ⑦ 月がしりい

一ひのちよよ ⑧ 彌之 ⑨ 人乃 ⑩ 人乃

△万代とあかりし ⑪ 鷹お人まうとあまきり
一ひのちよよ ⑫ 田のあまきり

△城のちう門田あまきり ⑬ 葉とま本休らあまきり
一ひのちよよ ⑭ 葉とま本休らあまきり

△あまきりあまきり ⑮ 葉とま本休らあまきり

〇〇〇

「のらふ人」 〇 作兼（所ののらふ人といひゆりゆりゆりの

「ひとりとゆ人」 〇 ゆりしとちうたんと（奇と後す）

「ひびぎののや」 〇 艶と（又ひびぎと云無とらうて

「ひらり」 〇 派し（葉たまり） 一ひらり（万葉はあやと

「ひとり」 〇 搦去（手） 一ひらり（厚也と後と去）

「ひかり」 〇 水際（一） 一ひらり（一）

「ひのり」 〇 書（一） 一ひらり（一）

「ひのけ」 〇 水（一） 一ひらり（一）

「ひらり」 〇 一ひらり（一）

「ひらり」 〇 一ひらり（一）

「ひらり」 〇 一ひらり（一）

「人やりあふぬ」 〇 又人（一） 〇 我（一）

△もあはれあふらとりきと（一）

△人やりあふぬ（一）

△もあはれあふらとりきと（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△ひらりあふぬ（一）

△大あつたつ葉の（葉）はかりきとくへふれあつた秋の（月）
 △まほし月夜を（神）はしあふふあつた月夜を（月）
 △ひとよ（ト） ③ 水真（水）こわくもくえん真（水）はす

△ひとのりの川（水）はあつた網（網）はあつた網（網）はあつた網（網）
 △いせあつた皆（皆）はあつた網（網）はあつた網（網）

△人の言（言） ④ 人の言（言）はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

△ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）
 △ひやく（百） ④ 秋はあつた網（網）はあつた網（網）

一ひらの^{トハ}

① 秋^ニ五^ノを^経林^ノ 河内^ノを^仁使^リ三^ノと^後ひま^も

△ 雑の山を

△ 雑の山を新^レき^シ ね^レあ^レお^レ年^ヲけ^ル松^ノ浦^ヲ白^ク雲^ニ 赤^ク陸^ニ

一ひの^とく^よ

① 只^ク風^ノ 神^ノより^レ風^ノに^レ後^ヲ抄^レい^ス

異^ニり^テく^レ風^ノと^レり

② 異^ニり^テく^レ風^ノと^レり 靴^ヲ並^レの^吹か^ユま^ぬあり^キ

一ひの^の髪^をく^レ

① 一^ハひ^ノ髪^ヲを^くレ

一火^ノ焼^カ

① 火^ノ焼^カ ② 火^ノ焼^カ ③ 火^ノ焼^カ

一久^ク久^ク山^ノ

① 久^ク久^ク山^ノ ② 久^ク久^ク山^ノ

一乃^レ車^ノ

① 乃^レ車^ノ ② 乃^レ車^ノ ③ 乃^レ車^ノ

一ひ^のま^の釣

① 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

② 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

③ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

④ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

⑤ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

⑥ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

⑦ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

⑧ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

⑨ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

一ひ^のま^の釣

⑩ 一^ハひ^ノま^ノ釣^ヲ

目^ノあ^ハひ^ノ酒^ノ ① 目^ノあ^ハひ^ノ酒^ノ ② 目^ノあ^ハひ^ノ酒^ノ

ひ^ノま^の釣 ① ひ^ノま^の釣 ② ひ^ノま^の釣

③ ひ^ノま^の釣 ④ ひ^ノま^の釣 ⑤ ひ^ノま^の釣

⑥ ひ^ノま^の釣 ⑦ ひ^ノま^の釣 ⑧ ひ^ノま^の釣

⑨ ひ^ノま^の釣 ⑩ ひ^ノま^の釣

ひ^ノま^の釣 ① ひ^ノま^の釣 ② ひ^ノま^の釣

③ ひ^ノま^の釣 ④ ひ^ノま^の釣 ⑤ ひ^ノま^の釣

⑥ ひ^ノま^の釣 ⑦ ひ^ノま^の釣 ⑧ ひ^ノま^の釣

⑨ ひ^ノま^の釣 ⑩ ひ^ノま^の釣

ひ^ノま^の釣 ① ひ^ノま^の釣 ② ひ^ノま^の釣

③ ひ^ノま^の釣 ④ ひ^ノま^の釣 ⑤ ひ^ノま^の釣

⑥ ひ^ノま^の釣 ⑦ ひ^ノま^の釣 ⑧ ひ^ノま^の釣

⑨ ひ^ノま^の釣 ⑩ ひ^ノま^の釣

乃花鳴る事生く今乃まもれこれなり

一ひのりごよ ① 新緑と奈神供に花を又のりごよ

一ひのりごよ ② 卯春と神乃ひのりごよをたまりまもれゆふのけり

一ひのりごよ ③ 蝦蟇 松田 海狗あまのり

一ひのりごよ ④ 新緑の蔵

一ひのりごよ ⑤ 新緑と後物抄

一ひのりごよ ⑥ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑦ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑧ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑨ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑩ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑪ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑫ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑬ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑭ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑮ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑯ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑰ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑱ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑲ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ⑳ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉑ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉒ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉓ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉔ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉕ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉖ 大日靈尊 大日靈尊のあま

一ひのりごよ ㉗ 大日靈尊 大日靈尊のあま

△おろしを扱ひおろしひたしを打きこみおろしを一とらふ
△ひつりのおろし ③ 屠五の羊し 食おろしをうらむこと

△枝馬へまておろしつづき羊のおろしをうらむこと
一日くし ④ 扱よりおろし おろしをうらむこと

△おろした後の日暮一極れをうらむこと
① ひつり ② 男七夕し ③ ひつり ④ 扱 扱はる

△煮甲の煮きまじりぬ天の月をうらむこと
① ひつり ② 扱 扱はる ③ 扱 扱はる ④ 扱 扱はる

△馬使のれきまじりぬ天の月をうらむこと
① ひつり ② 扱 扱はる ③ 扱 扱はる ④ 扱 扱はる

△ひつりの目 ⑤ 引おの目 引おの目 ⑥ 扱 扱はる ⑦ 扱 扱はる

三日いたを乃 おろし 扱 扱はる 四日いたを乃 おろし 扱 扱はる 五日いたを乃 おろし 扱 扱はる 六日いたを乃 おろし 扱 扱はる 七日いたを乃 おろし 扱 扱はる 八日いたを乃 おろし 扱 扱はる 九日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十一日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十二日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十三日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十四日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十五日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十六日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十七日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十八日いたを乃 おろし 扱 扱はる 十九日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十一日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十二日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十三日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十四日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十五日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十六日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十七日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十八日いたを乃 おろし 扱 扱はる 二十九日いたを乃 おろし 扱 扱はる 三十日いたを乃 おろし 扱 扱はる

一人乃月 ① 五月七月 ② 出車 出車 ③ 麻 麻 ④ 扱 扱はる ⑤ 扱 扱はる ⑥ 扱 扱はる ⑦ 扱 扱はる ⑧ 扱 扱はる ⑨ 扱 扱はる ⑩ 扱 扱はる ⑪ 扱 扱はる ⑫ 扱 扱はる ⑬ 扱 扱はる ⑭ 扱 扱はる ⑮ 扱 扱はる ⑯ 扱 扱はる ⑰ 扱 扱はる ⑱ 扱 扱はる ⑲ 扱 扱はる ⑳ 扱 扱はる ㉑ 扱 扱はる ㉒ 扱 扱はる ㉓ 扱 扱はる ㉔ 扱 扱はる ㉕ 扱 扱はる ㉖ 扱 扱はる ㉗ 扱 扱はる ㉘ 扱 扱はる ㉙ 扱 扱はる ㉚ 扱 扱はる ㉛ 扱 扱はる ㉜ 扱 扱はる ㉝ 扱 扱はる ㉞ 扱 扱はる ㉟ 扱 扱はる ㊱ 扱 扱はる ㊲ 扱 扱はる ㊳ 扱 扱はる ㊴ 扱 扱はる ㊵ 扱 扱はる ㊶ 扱 扱はる ㊷ 扱 扱はる ㊸ 扱 扱はる ㊹ 扱 扱はる ㊺ 扱 扱はる ㊻ 扱 扱はる ㊼ 扱 扱はる ㊽ 扱 扱はる ㊾ 扱 扱はる ㊿ 扱 扱はる

一人乃月 ① 五月七月 ② 出車 出車 ③ 麻 麻 ④ 扱 扱はる ⑤ 扱 扱はる ⑥ 扱 扱はる ⑦ 扱 扱はる ⑧ 扱 扱はる ⑨ 扱 扱はる ⑩ 扱 扱はる ⑪ 扱 扱はる ⑫ 扱 扱はる ⑬ 扱 扱はる ⑭ 扱 扱はる ⑮ 扱 扱はる ⑯ 扱 扱はる ⑰ 扱 扱はる ⑱ 扱 扱はる ⑲ 扱 扱はる ⑳ 扱 扱はる ㉑ 扱 扱はる ㉒ 扱 扱はる ㉓ 扱 扱はる ㉔ 扱 扱はる ㉕ 扱 扱はる ㉖ 扱 扱はる ㉗ 扱 扱はる ㉘ 扱 扱はる ㉙ 扱 扱はる ㉚ 扱 扱はる ㉛ 扱 扱はる ㉜ 扱 扱はる ㉝ 扱 扱はる ㉞ 扱 扱はる ㉟ 扱 扱はる ㊱ 扱 扱はる ㊲ 扱 扱はる ㊳ 扱 扱はる ㊴ 扱 扱はる ㊵ 扱 扱はる ㊶ 扱 扱はる ㊷ 扱 扱はる ㊸ 扱 扱はる ㊹ 扱 扱はる ㊺ 扱 扱はる ㊻ 扱 扱はる ㊼ 扱 扱はる ㊽ 扱 扱はる ㊾ 扱 扱はる ㊿ 扱 扱はる

一人乃月 ① 五月七月 ② 出車 出車 ③ 麻 麻 ④ 扱 扱はる ⑤ 扱 扱はる ⑥ 扱 扱はる ⑦ 扱 扱はる ⑧ 扱 扱はる ⑨ 扱 扱はる ⑩ 扱 扱はる ⑪ 扱 扱はる ⑫ 扱 扱はる ⑬ 扱 扱はる ⑭ 扱 扱はる ⑮ 扱 扱はる ⑯ 扱 扱はる ⑰ 扱 扱はる ⑱ 扱 扱はる ⑲ 扱 扱はる ⑳ 扱 扱はる ㉑ 扱 扱はる ㉒ 扱 扱はる ㉓ 扱 扱はる ㉔ 扱 扱はる ㉕ 扱 扱はる ㉖ 扱 扱はる ㉗ 扱 扱はる ㉘ 扱 扱はる ㉙ 扱 扱はる ㉚ 扱 扱はる ㉛ 扱 扱はる ㉜ 扱 扱はる ㉝ 扱 扱はる ㉞ 扱 扱はる ㉟ 扱 扱はる ㊱ 扱 扱はる ㊲ 扱 扱はる ㊳ 扱 扱はる ㊴ 扱 扱はる ㊵ 扱 扱はる ㊶ 扱 扱はる ㊷ 扱 扱はる ㊸ 扱 扱はる ㊹ 扱 扱はる ㊺ 扱 扱はる ㊻ 扱 扱はる ㊼ 扱 扱はる ㊽ 扱 扱はる ㊾ 扱 扱はる ㊿ 扱 扱はる

一人乃月 ① 五月七月 ② 出車 出車 ③ 麻 麻 ④ 扱 扱はる ⑤ 扱 扱はる ⑥ 扱 扱はる ⑦ 扱 扱はる ⑧ 扱 扱はる ⑨ 扱 扱はる ⑩ 扱 扱はる ⑪ 扱 扱はる ⑫ 扱 扱はる ⑬ 扱 扱はる ⑭ 扱 扱はる ⑮ 扱 扱はる ⑯ 扱 扱はる ⑰ 扱 扱はる ⑱ 扱 扱はる ⑲ 扱 扱はる ⑳ 扱 扱はる ㉑ 扱 扱はる ㉒ 扱 扱はる ㉓ 扱 扱はる ㉔ 扱 扱はる ㉕ 扱 扱はる ㉖ 扱 扱はる ㉗ 扱 扱はる ㉘ 扱 扱はる ㉙ 扱 扱はる ㉚ 扱 扱はる ㉛ 扱 扱はる ㉜ 扱 扱はる ㉝ 扱 扱はる ㉞ 扱 扱はる ㉟ 扱 扱はる ㊱ 扱 扱はる ㊲ 扱 扱はる ㊳ 扱 扱はる ㊴ 扱 扱はる ㊵ 扱 扱はる ㊶ 扱 扱はる ㊷ 扱 扱はる ㊸ 扱 扱はる ㊹ 扱 扱はる ㊺ 扱 扱はる ㊻ 扱 扱はる ㊼ 扱 扱はる ㊽ 扱 扱はる ㊾ 扱 扱はる ㊿ 扱 扱はる

せまれの女とてさういふ男の居あつた者おれがむく
れ弟おとくえんとてさういふ男がさういふつてさういふ
たよりがたつたがむくさういふ男がさういふつてさういふ
いふとてさういふ海の家あり

いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり

〇七

いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり

いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり
いふとてさういふ海の家あり

〇七

△花中地味なる花は百日草花咲て社由也

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

△月の秋のあつとど花はひさし草かゝれば後てはる花は

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

△花とよのちと山ふ花りともは花枝の情を

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

△百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

△百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

一 百日草ヒキソコ ① 葉心 ② 花

△秋萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

△萩乃長枝萩花は花ははらり花ははらり

『おすの草子くた』 ① おすのくさくたけりあしすた後
 終れぬ多草とさしてふさぬなまにりふあにりたる
 とくふさして夜々う成枝を花と起ぬれたるうらぶら成
 まりとおん^{キコ}蔭蔭たりハ云ふとち後れもさふに後り
 ともおれたるべし^イ儂^ニふ^ハ愛^ハ賢^ハありありとさるべし
 おすのりもやふくと云ふ後す おふさの性やうのむさお
 △云ふれは徳林茶ぐらみは花我のらんらんらんありと
 △かりおゆか唐もみ多はげれて勢子ぞくさう^{徳林茶}あり
 一 おく子娘 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ゆきよりあおむらりれうくとつらあわトあれた奇云
 ひーと云ふ付くとりれうくとあふんかうくとくあつ
 ぬきいばらうくとひーもりれうくとさづれやた可る
 △整れからむに後虫れ我うとさふ社唱めよどお振う
 △人とお振うつらら整れからむに後ひーのなと云れう
 一 おらりのち ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

△天川やふ深木ふりさるん知養我花のらやういさる
 右かふうたの本と云は^ハ遠^ハき^ハ新^ハ時^ハ寒^ハしく云^ハ方^ハ土^ハ小天川
 乃多と云んをに^ハつ^ハら^ハす^ハ海^ハ本^ハの^ハり^ハて^ハ天川^ハあり^ハ誠女
 おあひくゝあふとらふ誠女もそののあはくりらう
 ゆりて武希^テ小奏^テす^ハ帝^ハ位^ハぞとて^ハ危^ハ上^ハおほくと
 うれより^ハ東方^ハ朝^ハが^ハ足^ハく^ハは^ハつ^ハく^ハつ^ハあ^ハれ^ハハ^ハ誠^ハ女^ハも^ハら^ハう^ハわ

△ 山崎の流石と森乃屋の流石は川をせせりたる麻のさへし
 一 せしり ④ 山崎の流石 ⑤ 山崎の流石は川をせせりたる麻のさへし

△ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし
 一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

一 せしり ④ 大和やせいのりともなりかき取りやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 一 せしり ④ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 △ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 一 せしり ④ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 △ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 一 せしり ④ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 △ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし
 一 せしり ④ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

○ す

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△ 海軍や唐まで思はれ月報かき入けりやままり一海をかてし

△春のこをさすくともこのべと煙たれ灰とぬめり

一とけ乃小なき ① 葦たけり

一とれ村より ① ちりきり 海をこる 八雲ひれぬかた

一ととめぬ敷を ② 不毛なり ちりきり ちりきり ちりきり

△山もこ人もさめぬ振返りてかこびるこさるこせん

△うらまへくから入るはあやめあやめと物のままぬりなり

一とらゆよ ④ 峰へハ雲一たこれと用ごとくあり

或の日か紀三人の名ふえり又麻乃鳴以揚帰とえり

又麻子とえり又麻麻とよまゆとえ麻麻とよまゆ

△とらゆ鳴秋の寂系物とて挽けんとてゆらまえん

△秋山れ等小友とあはれむせう物長をいそり鳴なり

又とらゆとえ相承乃こもあふあ乃物たわすりのてん

△春とらゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

らとらゆら神小とえゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

又物れとえ小ぬらぬ何ゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

△花月とゆとえららのまゆはあはれとてゆらまえん

△鳥とゆとえたれお母あはれ一むとえぬ又まはれぬ

一とらゆらよ ② ともあはれと何とてゆらまえん

△春とらゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

らとらゆら神小とえゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

又物れとえ小ぬらぬ何ゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

△花月とゆとえららのまゆはあはれとてゆらまえん

△鳥とゆとえたれお母あはれ一むとえぬ又まはれぬ

一とらゆらよ ② ともあはれと何とてゆらまえん

△春とらゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

らとらゆら神小とえゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

又物れとえ小ぬらぬ何ゆとえむとぶらうや又神あはれ九何て引とひ

名をたててはありぬるに
航せしむす

一 ① 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ② 名はたててはありぬるに航せしむす

一 ③ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ④ 名はたててはありぬるに航せしむす

一 ⑤ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ⑥ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ⑦ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

時身ららきしとてのふお波乃ららきとてのふお

足くたれいもせ乃かつり時れつれられしとてのふお

乃とてはたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ⑧ 名はたててはありぬるに航せしむす

一 ⑨ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ⑩ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 ⑪ 名はたててはありぬるに航せしむす

△ 萩乃をたててはありぬるに航せしむす

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ 漆器茶よ ⁽²⁾ 松乃のこ

△⁽¹⁾ 山にありては 山にありては 山にありては 山にありては 山にありては

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

△⁽¹⁾ 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中 皇の御中

一 しみくれ茶よ ⁽¹⁾ ⁽²⁾ 皇と女 天子の御も ⁽³⁾ 帝王 ⁽⁴⁾

一 田舎のくくよ
 二 田舎のくくよ
 三 田舎のくくよ
 四 田舎のくくよ
 五 田舎のくくよ
 六 田舎のくくよ
 七 田舎のくくよ
 八 田舎のくくよ
 九 田舎のくくよ
 十 田舎のくくよ
 十一 田舎のくくよ
 十二 田舎のくくよ
 十三 田舎のくくよ
 十四 田舎のくくよ
 十五 田舎のくくよ
 十六 田舎のくくよ
 十七 田舎のくくよ
 十八 田舎のくくよ
 十九 田舎のくくよ
 二十 田舎のくくよ
 二十一 田舎のくくよ
 二十二 田舎のくくよ
 二十三 田舎のくくよ
 二十四 田舎のくくよ
 二十五 田舎のくくよ
 二十六 田舎のくくよ
 二十七 田舎のくくよ
 二十八 田舎のくくよ
 二十九 田舎のくくよ
 三十 田舎のくくよ
 三十一 田舎のくくよ
 三十二 田舎のくくよ
 三十三 田舎のくくよ
 三十四 田舎のくくよ
 三十五 田舎のくくよ
 三十六 田舎のくくよ
 三十七 田舎のくくよ
 三十八 田舎のくくよ
 三十九 田舎のくくよ
 四十 田舎のくくよ
 四十一 田舎のくくよ
 四十二 田舎のくくよ
 四十三 田舎のくくよ
 四十四 田舎のくくよ
 四十五 田舎のくくよ
 四十六 田舎のくくよ
 四十七 田舎のくくよ
 四十八 田舎のくくよ
 四十九 田舎のくくよ
 五十 田舎のくくよ
 五十一 田舎のくくよ
 五十二 田舎のくくよ
 五十三 田舎のくくよ
 五十四 田舎のくくよ
 五十五 田舎のくくよ
 五十六 田舎のくくよ
 五十七 田舎のくくよ
 五十八 田舎のくくよ
 五十九 田舎のくくよ
 六十 田舎のくくよ
 六十一 田舎のくくよ
 六十二 田舎のくくよ
 六十三 田舎のくくよ
 六十四 田舎のくくよ
 六十五 田舎のくくよ
 六十六 田舎のくくよ
 六十七 田舎のくくよ
 六十八 田舎のくくよ
 六十九 田舎のくくよ
 七十 田舎のくくよ
 七十一 田舎のくくよ
 七十二 田舎のくくよ
 七十三 田舎のくくよ
 七十四 田舎のくくよ
 七十五 田舎のくくよ
 七十六 田舎のくくよ
 七十七 田舎のくくよ
 七十八 田舎のくくよ
 七十九 田舎のくくよ
 八十 田舎のくくよ
 八十一 田舎のくくよ
 八十二 田舎のくくよ
 八十三 田舎のくくよ
 八十四 田舎のくくよ
 八十五 田舎のくくよ
 八十六 田舎のくくよ
 八十七 田舎のくくよ
 八十八 田舎のくくよ
 八十九 田舎のくくよ
 九十 田舎のくくよ
 九十一 田舎のくくよ
 九十二 田舎のくくよ
 九十三 田舎のくくよ
 九十四 田舎のくくよ
 九十五 田舎のくくよ
 九十六 田舎のくくよ
 九十七 田舎のくくよ
 九十八 田舎のくくよ
 九十九 田舎のくくよ
 一百 田舎のくくよ

慶長二年三月上旬より法服結巴持は前
 中近村桑乃後小附一紙不契書小いりく
 少く多しや中乃海乃多にかりの位持を
 折節或人此一冊と神中一未ち申あまは
 見りれこれか誰人の志りせむとあす
 縁と也和舟乃浦小あ海と志げりん入る
 切不切と申すとい相小あうどんいあべう
 あうれい末代乃重実なるべし間法華もあ也

あつれびの書乃久志記より紹也とて行われ
来由と云らぬ所を先師既述の如く
此書の紙様は唐より入る所を云々や後案も
是よりいへばも猶疑と制と只後述の後より
唐と云んはあつれび先師の教を云ふも也
あつれびと云はる所を大あつれびと云はる所を
あつれびと云はる所を大あつれびと云はる所を
あつれびと云はる所を大あつれびと云はる所を
あつれびと云はる所を大あつれびと云はる所を
あつれびと云はる所を大あつれびと云はる所を

元祿五^壬申曆八月吉辰

大坂心齋橋筋上人町

鴈金屋庄兵衛 刊梓

望月平揚万町よりあつれび

